



2026

診療科のご案内



地方独立行政法人

東京都健康長寿医療センター

Tokyo Metropolitan Institute for Geriatrics and Gerontology

基本理念

当センターは、高齢者の心身の特性に応じた適切な医療の提供、臨床と研究の連携、高齢者の QOL を維持・向上させるための研究を通じて、高齢者の健康増進、健康長寿の実現を目指し、大都市東京における超高齢社会の都市モデルの創造の一翼を担います。

Contents

1	ご挨拶	1
2	施設概要	4
3	医療実績（令和7年度）	6
4	病院の特色	8
5	診療科のご案内	9
6	看護部紹介	42
7	医療連携係/連携医制度のご案内	44
8	ご紹介方法/受診について	45
9	検査・初診予約システムご案内	46
10	相談窓口について	47
11	施設のご案内	48

センター長 神崎 恒一

東京都健康長寿医療センター病院は、常勤医師約130名、非常勤医師約170名、看護師約500名、医療技術者約200名をはじめ、総勢1,000名を超える職員により運営されている急性期病院です。加えて、地域の多くのボランティアの皆様にもご協力をいただいております。

当センターは、高齢者に多い脳・心血管疾患、がん、認知症、糖尿病を重点領域としつつ、骨・関節疾患、腎疾患、感覚器疾患（白内障・難聴）、呼吸器疾患など、幅広い分野において充実した診療体制と専門スタッフのもと、高度な医療を提供しております。また、救急医療にも積極的に取り組み、小児科および産科関連を除くほぼすべての疾患に対応しています。

さらに、PET-CT、320列CT、3テスラMRIを用いた高精度画像診断、ハイブリッド手術室による先進的治療、下肢難治性潰瘍に対する血管再生療法、遺伝子診断に基づく個別化医療、内視鏡・カテーテルを駆使した低侵襲治療など、先進医療の導入にも積極的に取り組んでおります。加えて、内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）、超音波内視鏡下穿刺術（EUS-FNA）、大動脈瘤に対するステントグラフト治療、早期アルツハイマー病に対する抗体療法などの専門医療においても、症例数は着実に増加しています。

このような医療を支える環境として、利用しやすい外来配置やプライバシーに配慮した診療体制、さらに快適でゆとりある療養環境の整備にも努めております。

当センターでは、患者さんお一人おひとりとご家族に対し、十分な説明とご理解を得たうえで、①質の高い医療の提供、②退院後の生活の質を見据えた医療、③地域の医療機関および各種施設との緊密な連携を柱とした医療を推進しています。退院に際しても、退院後の生活が円滑に営まれるよう、最大限の支援を行っております。

受診をご希望の際には、是非かかりつけ医の紹介状をご持参ください。紹介状を頂くことにより、これまでの経過や病状を正確に把握でき、より迅速かつ適切な医療の提供が可能となります。

中年期の方から高齢期の方に至るまで、皆様がアクティブで、充実した生活を送ることができるよう、日進月歩の医学・医療を取り入れつつ、安全で安心な医療の提供に職員一同努めてまいります。より多くの方々が、今後当センターをご利用下さいますよう、お願い申し上げます。



副院長

岩田 淳

日頃より当センターとの診療連携に格別のご高配を賜り、誠にありがとうございます。

地域連携を担当しております副院長の岩田淳と申します。

ご高承のとおり、当センターは高齢者医療を中心とした診療を行っております。高齢の患者さんにおかれましては、慢性経過をたどる生活習慣病に加え、複数の疾患を併せ持ちながら生活されていることも少なくありません。そのような方々にとって、日常的な診療を、居住地に近い地域の先生方のご施設において、幅広く丁寧にご担当いただくことは極めて重要であると考えております。

その一方で、救急対応を要する疾患に罹患された場合や、これまでとは異なる病態・疾患の兆候がみられた場合には、ぜひ当センターへご紹介いただき、専門的な医療を受けていただければ幸いに存じます。当センターにおける治療や精査が終了した後は、速やかに先生方のご施設へお戻しいただき、診療連携の関係を維持しながら、従来の生活を継続していただけるよう努めてまいります。

今後も先生方と緊密に連携し、ともに地域医療に貢献してまいりたいと存じます。診療連携に関しまして、ご意見やご要望などがございましたら、どうぞご遠慮なく地域連携担当者までお寄せください。

今後ともご指導、ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願ひ申し上げます。



副院長

安樂 真樹

日頃より当センターをご信頼いただき、患者さんをご紹介賜り、誠にありがとうございます。地域の医療機関・療養施設の先生方と連携し、患者さんに寄り添った温かみのある医療を提供することを基本姿勢としております。

今後さらに高齢化が進む中、当センターは高齢者医療に強みを有する高度急性期病院として、急性期治療のみならず、その後の生活を見据えた医療の提供を重要な使命と考えております。特にかん診療においては、受診から治療、再発時や終末期における緩和医療に至るまで、切れ目のない診療体制の整備を進めております。その過程においては、患者さんやご家族の状況に応じた医療・各種サービスにつなぐ支援を重視し、きめ細やかなサポート体制の充実を図ってまいります。

また、ロボット支援手術やハイブリッド手術室などの先進的医療機器を活用し、低侵襲で安全性の高い治療の提供に努めております。包括的フレイル評価を活かし、患者さん一人ひとりに最適な治療選択を長期的視点でご提案してまいります。

本冊子では各外科系診療科の特色をご紹介します。今後とも地域の先生方とともに、より良い医療の提供に努めてまいりますので、何卒よろしくお願い申し上げます。



副院長

山本 寛

日頃より当センターとの診療連携にご尽力いただき、誠にありがとうございます。4月より副院長を拝命いたしました山本寛と申します。

当センターは、高齢者医療を基盤に、内科系各診療科が連携し、複数の疾患を併せ持つ高齢患者さんに対して包括的な診療を提供しております。近年は、がん医療、救急医療、認知症医療をはじめとした重点領域の体制整備を進め、地域の先生方からご紹介いただく多様な症例に対応してまいりました。

高齢者の多くは、住み慣れた環境で、その人らしい生活を維持していくことを望んでおられます。そのため、疾患治療に加え、生活機能や認知機能、社会的背景を踏まえた診療を進めていくことが重要です。とりわけ内科系疾患では、救急受診や入院を契機として生活機能が低下し、再入院へとつながる悪循環が課題となります。

当センターでは、こうした経過を踏まえ、高齢者総合機能評価（CGA）の視点を取り入れながら診療体制の強化を進めております。多くの高齢患者さんについて、一度当センターで評価や診療に関わらせていただくことが、その後のご診療にお役立ていただける場合があると考えております。ぜひご紹介ください。

今後も地域の先生方との連携を一層深め、患者さんの生活を支える医療の実現に努めてまいります。引き続きどうぞよろしくお願い申し上げます。



副院長

加納 江利子

日頃より、地域医療の発展と患者さんの健康維持にご尽力いただき、誠にありがとうございます。高齢者医療・看護においては、患者さんの生活背景や価値観を尊重し、その人らしい生活を支える個別化されたケアがますます重要になっています。当センターでは、看護師が医療と生活の橋渡し役として機能できるよう、日常生活の援助に加え、多職種連携や地域との協力体制の強化を進めています。また、教育・研修にも力を入れ、最新の知識と技術を備えた看護師の育成に取り組んでいます。

現在、当センターには皮膚・排泄ケア、摂食・嚥下障害看護などの分野で活躍する29名の認定看護師が在籍し、より専門的なケアを提供しています。さらに、老人看護専門看護師やがん看護専門看護師も配置し、患者さんの多様なニーズに対応しています。これらの看護師は、地域の医療機関や施設からの相談対応や出前勉強会などを通じ、地域全体の看護の質向上にも取り組んでいます。また、患者さんが大切にしていることや望む生活を医療の中で共有する取り組みとして、人生会議（ACP）の実践にも力を入れています。入院中に伺った患者さんの思いや価値観を記録し、地域の医療・介護の皆様とつなぐことで、その人らしい療養生活を地域全体で支えていけるよう努めています。高齢者がその人らしく生きることを支えるため、看護実践を地域につなぐことは私たちの重要な使命です。これからも皆様との協力関係を大切にしながら、地域医療の発展に寄与してまいります。どうぞよろしくお願い申し上げます。



2 施設概要

- 名称
東京都健康長寿医療センター
- 所在地
〒173-0015 東京都板橋区栄町35-2
- 電話番号
03-3964-1141（代表） / FAX03-3964-1392（医療連携係直通）
- 開設者
理事長 秋下 雅弘
- 開設年月日
平成21年4月1日
- センター長
神崎 恒一
- 職員数
医師121人 歯科医師3人 看護師489人 医療技術197人 その他115人（令和8年4月1日現在）
- 診療規模
医療法定床 550床（一般 520床 精神 30床）
- 外来患者数
663.6人/日（令和7年度）
- 平均在院日数
11.8日（令和7年度）
- 診療科目
【内科系】
総合内科・高齢診療科、膠原病・リウマチ科、腎臓内科・透析科、糖尿病・代謝・内分泌内科、循環器内科、呼吸器内科、消化器・内視鏡内科、脳神経内科、血液内科、感染症内科、緩和ケア内科、精神科
【外科系】
消化器・一般外科、血管外科、心臓血管外科、脳神経外科、呼吸器外科、整形・脊椎外科、皮膚科、泌尿器科、眼科、耳鼻咽喉科、歯科口腔外科
【中央診療部門】
救急・集中治療科、リハビリテーション科、放射線診断科、放射線治療科、麻酔科、臨床検査科、輸血・細胞療法科、病理診断科
【専門外来】
フレイル外来、もの忘れ外来、骨粗鬆症外来、高齢者いきいき外来など各種専門外来を開設

*下線各科は、標榜診療科以外の名称

- 指定医療機関（一部抜粋）
 - 地域医療支援病院
 - 救急指定病院（救急告示病院）
 - 東京都認知症疾患医療センター（地域拠点型）
 - 東京都がん診療連携協力病院
 - 東京都災害拠点病院
 - 紹介受診重点医療機関
 - 指定自立支援医療機関（更生医療・精神通院医療）
 - 難病医療費助成指定医療機関
 - 臨床研修病院・臨床修練指定病院 他
- 救急体制
 - 東京都指定二次救急医療機関（休日・全夜間診療事業実施）
 - 東京都CCUネットワーク
 - 急性大動脈瘤スーパーネットワーク
 - 脳卒中急性期医療機関（血栓回収療法実施医療機関）



3 医療実績 (令和7年度)

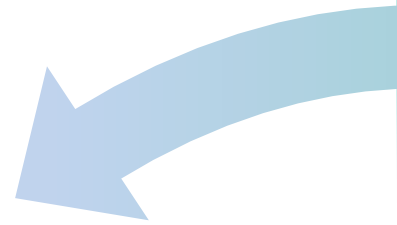
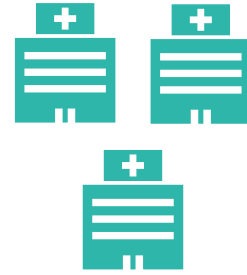
～寄り添う医療、拓く研究～

外来・入院

紹介件数 **10363** 件

紹介率 **81.4** %

新入院患者数 **10997** 人



連携医登録医療機関数

1019 件

救急患者

区西北部の二次救急医療機関として、迅速かつ的確な初期対応を行っています。

救急患者受け入れ件数 **7174** 件

救急車台数 **3929** 台

救急・緊急入院 入院率 **57.1** %





逆紹介件数

14057 件

逆紹介率

110.4%

新規在宅医療・福祉相談件数

1997 件

入院および外来通院中の患者家族における療養上・介護上の相談

「二人主治医制」を推進しています。

当センターは、急性疾患または重症な治療を主とする急性期病院です。当センターの医療を必要とする患者さんを、一人でも多くお受け入れし、治療にあたるよう日々つとめております。そのため、病状が安定した患者さんやかかりつけ医をお持ちでない患者さんを対象に、今後も安心して通院いただける医療機関をご紹介します窓口を設けています。すでにかかりつけ医をお持ちの方につきましては、これまで通院されている医療機関へご紹介いたします。

医療連携係



03-3579-6963 (直通電話)

9:00~17:00 (平日祝日/年末年始を除く)



4 病院の特色

～寄り添う医療 拓く研究～

東京都健康長寿医療センターは、ご高齢の方に多い脳・心血管疾患・がん・認知症・糖尿病を重点医療として幅広く診療する専門病院です。併設の研究所と連携し、高齢者の健康と長寿に貢献しています。

多数の診療科100名以上の医師数

小児科・産婦人科を除く高齢者の全身疾患に幅広く対応できる充実した診療科を備えています。

ICU（特定集中治療ユニット）CCU（冠動脈治療ユニット） SCU（脳卒中ケアユニット）を設置

特定集中治療室を設置し、より効果的な治療を実施します。

24時間体制救急

二次救急医療機関として24時間体制で、緊急対応を必要とする患者さんを中心に救急診療を行っています。

地域の
治療ニーズにマッチ、
高齢者医療の先端

光・緑・水に
あふれた
癒しの環境

光

障子からの柔らかな光を取り入れた病室
自然光を取り入れた心地よいスペース
くつろぎ空間を生み出すこだわりの照明



緑

外来・入院患者さんの憩いの場である屋上庭園
春になるとセンターの周りは沢山の桜が咲きます。



水

患者さんや地域の方々の憩いの場になっています。



アート

著名作家によるアート作品を院内の様々な場所に設置し、患者さんやご家族の方に楽しんでいただくようにしています。

5 診療科のご案内

内科系	総合内科・高齢診療科	10
	膠原病・リウマチ科	11
	腎臓内科・透析科	12
	糖尿病・代謝・内分泌内科	13
	循環器内科	14
	呼吸器内科	16
	消化器・内視鏡内科	17
	脳神経内科	18
	血液内科	19
	感染症内科	20
	精神科	21
緩和ケア内科	22	
外科系	消化器・一般外科	23
	心臓血管外科	24
	血管外科	25
	脳神経外科	26
	呼吸器外科	27
	整形・脊椎外科	28
	皮膚科	29
	泌尿器科	30
	眼科	31
	耳鼻咽喉科	32
歯科口腔外科	33	
中央診療部門	救急・集中治療科	34
	麻酔科	35
	リハビリテーション科	36
	放射線治療科	37
	病理診断科	38
	臨床検査科	39
	放射線診断科	40
臨床研修医	臨床研修医	41

総合内科・高齢診療科

丁寧な対話と迅速な検査で早期治療に繋がります

対象疾患

【外来診療】

急性疾患：発熱、咳嗽などの呼吸器症状、腹痛、下痢などの消化器症状の精査・加療。

老年症候群：体重減少、倦怠感、浮腫などの精査。

ポリファーマシー：内服の必要性について説明、有害事象有無の確認、症状緩和薬の調整。

【入院診療】

- ・感染症（肺炎、尿路感染症、蜂窩織炎など）、脱水症の治療
- ・食思不振、不明熱、貧血、悪性腫瘍などの精査
- ・要介護状態の在宅療養患者に対する1～2週間程度のレスパイト

診療科紹介

【総合内科：月～金曜日の午前午後】

発熱やお痛みなどの急性症状に対し、速やかに血液検査や画像検査を行います。感染症や脱水症など点滴治療が必要な場合は入院にて治療を行います。一方、心疾患、脳卒中、消化管出血など専門的な検査や治療が必要な場合には、専門診療科に紹介し早期治療に繋がります。

慢性的な食欲不振や体重減少などについての原因精査は、患者さんやご家族と時間をかけて相談しながら検査計画を立案します。

【フレイル外来連携枠：火・木の午後】

歩行速度、筋力、バランス機能、認知機能、老人性うつの評価、生活機能の評価などを行います。

【ポリファーマシー外来：火・木の午後】

内服薬についての理解を深めてもらい、生活習慣の指導を行いながら症状緩和薬の調整を行うことに注力しています。

ご紹介のポイント

高齢者は症状が非典型的である場合が多く、どこの診療科に紹介すべきかお困りのことも多いかと思えます。速やかに評価を行い、必要に応じて専門診療科に紹介いたしますので、遠慮なくご紹介ください。

原則予約制となっておりますが、紹介状をお持ちの患者さんは当日予約なしでもお受けしています。予め医療連携係にご一報いただけますと時間調整が可能ですのでご協力いただけますと幸いです。当日入院が必要な患者さんや、15時以降の緊急受診の場合は、救急外来へのご案内となる場合もございますので予めご了承ください。

大切な患者さんを丁寧に診察することをスタッフ一同心がけておりますので、よろしく願い申し上げます。

ご予約

- ・前日までのご予約は予約センターにて承ります。

TEL：03-3964-4890 受付は9：00から17：00 予約センター直通

- ・当日のご予約、入院相談は医療連携係にご連絡ください。ご病状によっては救急外来のご案内いたします。

TEL：03-3579-6963 受付は9：00から17：00 医療連携係直通電話

スタッフ紹介



氏名 岩切 理歌
いわきりりか
役職 内科総括部長、診療科長、部長
出身 日本医科大学(平成元年卒)
日本内科学会総合内科専門医・指導医
日本血液学会専門医
資格 日本老年医学会老年科専門医

常勤医

中山 智博 なかやまとひろ



氏名 大川 庭熙
おおかわ ていき
役職 医長
出身 東京大学(平成21年卒)
日本内科学会認定内科医・総合内科専門医・指導医
資格 日本循環器学会認定循環器専門医 他

専攻医

福士 路花 ふくし みちか



氏名 濱谷 広頌
はまやひろのぶ
役職 専門医長
出身 日本医科大学(平成22年卒)
日本内科学会総合内科専門医・指導医
日本老年医学会専門医
資格 日本呼吸器学会専門医

膠原病・リウマチ科

関節リウマチを含む膠原病や類縁疾患に対し併存疾患や全身状態に配慮した専門的な診療を行います

対象疾患

関節リウマチ、全身性エリテマトーデス、皮膚筋炎・多発性筋炎、全身性強皮症、シェーグレン病、混合性結合組織病、抗リン脂質抗体症候群、血管炎症候群（高安動脈炎、巨細胞性動脈炎、結節性多発動脈炎、顕微鏡的多発血管炎、多発血管炎性肉芽腫症、好酸球性多発血管炎性肉芽腫症、リウマトイド血管炎、クリオグロブリン血管炎など）、リウマチ性多発筋痛症、RS3PE症候群、ベーチェット病、成人スティル病、脊椎関節炎（強直性脊椎炎、乾癬性関節炎など）、IgG4関連疾患、サルコイドーシス、など

これら以外の疾患でも対応しているものが多くあります。

ご紹介のポイント

- 関節や筋の疼痛や動きにくさ
- 原因不明で持続する発熱、倦怠感
- 疾患の特定できない皮膚、粘膜異常
- 上記症状に加えてタンパク尿などの尿異常
- 間質性肺炎などの呼吸器病変
- 抗核抗体、抗DNA抗体、リウマトイド因子、抗CCP抗体などの自己抗体陽性
- 原因不明の血球減少
- 血栓症を繰り返す、若年での心筋梗塞、脳梗塞
- 膠原病や血管炎に伴う腎障害、肺疾患、神経障害など

診療科紹介

膠原病は関節リウマチ、全身性エリテマトーデス、皮膚筋炎・多発性筋炎、強皮症などを総称した疾患群で、代表的な自己免疫疾患です。疾患によって特徴的な自己抗体を認め、全身の様々な臓器に疾患特有の障害が起きます。リウマチ性疾患は関節、筋、腱などの骨格系の症状を伴う疾患群で、関節リウマチを代表格として、リウマチ性多発筋痛症、脊椎関節炎、痛風・偽痛風の結晶性関節炎など多くの疾患を含みます。当科では膠原病や血管炎症候群を含む自己免疫疾患、リウマチ性疾患およびその類縁疾患と言われる多くの疾患を対象とし、様々な臓器障害に対して他の専門科と連携して診断治療を行っています。多くが慢性疾患ですので、長期的な治療を必要とします。当科では若い方から高齢の方までライフステージを考えた診療を心掛けるとともに、各年齢特有の病態や併存症、合併症を考慮した治療方針を目標としています。関節リウマチは発症年齢の高齢化が進み、一部の関節炎疾患や血管炎は高齢者が罹患しやすいため、身体機能・認知機能や高齢者特有の問題を考慮しながら、最適化した治療を心掛けています。

スタッフ紹介



氏名 久保 かなえ
くぼ かなえ
役職 診療科長、部長
出身 神戸大学(平成7年卒)
日本内科学会総合内科専門医
日本リウマチ学会リウマチ専門医・指導医
資格 腎臓専門医
難病指定医 他

常勤医

小林 聖未 ことばやし さとみ
亀井 亮佑 かめい りょうすけ

非常勤医

杉原 毅彦すぎはら たかひこ
瀬里 祐せり ゆう
坂内 颯ばんない えい

専攻医

鈴木 淳史すずき あつし

腎臓内科・透析科

患者さんを中心に将来を見据えた腎臓病治療を共に考えます

対象疾患

尿所見異常（蛋白尿・血尿）/腎機能低下・慢性腎炎・急性腎炎・急速進行性腎炎

慢性腎臓病（CKD）：腎臓の働き（GFR）が健康な人の60%未満に低下する（GFRが60m^l/分/1.73m²未満）か、あるいは蛋白尿が出るといった腎臓の異常が続く状態です。CKDが進行しステージ5（慢性腎不全）になると腎代替療法（血液透析・腹膜透析・腎移植）が必要となります。

急性腎障害（AKI）：急激に腎臓の働きが低下する状態です。感染、薬剤、脱水などで生じることがあります。

ネフローゼ症候群：大量の蛋白尿により低蛋白血症となりむくみが出てきます。

血管炎・膠原病や血液疾患に伴う腎障害：皮疹、関節痛や貧血などを伴うことがあり、しばしば急速に腎機能が低下していきます。

診療科紹介

当科の特徴は、腎疾患の中でも高齢者に多い慢性腎臓病、急性腎障害、難治性ネフローゼ症候群、難治性血管炎・膠原病に伴う腎障害に力を入れています。高齢者では腎臓の働きが正常の方でも若年成人に比べて約70%まで低下していくと言われています。そのため、ひとたび腎臓病を生じると末期腎不全へと進行し、腎代替療法（血液透析・腹膜透析・腎移植）を受ける危険性が出てきてしまいます。年々増え続ける腎臓病を早期発見し、個々の患者さんに合わせた適切な治療を行い、末期腎不全への進展抑制に努めます。また腎代替療法が必要となってしまった場合も生活の質を低下させないよう考慮し適切な治療が受けられるよう療法選択を行っています。透析導入後もフレ

イル・認知症が発症・進行しないように対策しています。また腎代替療法を希望されない患者さんへの対応も行っています。

一方で多くの若年の患者さんも受診頂いており、腎炎・ネフローゼ症候群など積極的に診療しております。

当科の診療ポリシーは「患者さんを中心に考える」ということです。患者さんの家族を含め、皆が納得できる診療をめざしたいと思います。

ご紹介のポイント

月～金曜（午前、午後）外来診療しております。

尿の泡立ち、血尿、浮腫、倦怠感などが主な症状です。腎臓病は症状が出にくい特徴がありますので区の健診などで尿所見異常、eGFRの低下などありましたらご紹介ください。尿所見異常に関しては腎生検による病理組織診断をし、治療決定しております。ネフローゼ・血管炎の治療はリツキシマブ使用など経験豊富です。末期腎不全については、血液透析、腹膜透析導入を行っています。

透析導入後も定期的にフォローアップ入院（2泊3日）を行うなど、透析患者に多いフレイル・認知障害・心血管病の予防と早期発見に努めています。また透析非導入（保存的腎臓療法）希望患者への対応も行っています。高齢者に限らず幅広い年齢層の患者さんをお受けいたしておりますのでご紹介ください。

スタッフ紹介



氏名 武井 卓
たけいたかし
役職 診療科長、部長
出身 新潟大学（平成7年卒）
日本内科学会認定医・総合内科専門医
日本腎臓病学会専門医・指導医・評議員
日本透析医学会専門医・指導医 他



氏名 板橋 美津世
いたばし みつよ
役職 診療科長、部長
出身 東京女子医科大学（平成8年卒）
日本内科学会認定医・総合内科専門医
日本腎臓病学会専門医・指導医・評議員
日本透析医学会専門医・指導医 他



氏名 鈴木 訓之
すずきのりゆき
役職 医長
出身 杏林大学（平成15年卒）
日本内科学会認定医・総合内科専門医
日本腎臓病学会専門医・指導医
日本透析医学会専門医・指導医 他



氏名 岡 雅俊
おかまさとし
役職 専門医長
出身 山梨大学（平成20年卒）
日本内科学会認定医
日本透析医学会専門医

常勤医

松野 志歩 まつのしほ

非常勤医

鶴田 悠木 つるたゆうき

山中 法子 やまなかのりこ

専攻医

井沢 理乃 いざわあやの

太田 由衣 おおたゆい

小川 慶太郎 おがわけいたろう

福島 薫子 ふくしまかおるこ

森野 太揮 もりのたいき

糖尿病・代謝・内分泌内科

専門医と多職種チームが個々の病態に合わせた個別治療を行います

対象疾患

糖尿病：2型糖尿病、1型糖尿病、その他の糖尿病

境界型/耐糖能異常

メタボリックシンドローム、肥満症

低血糖：インスリノーム、腫瘍性低血糖、薬剤性低血糖、内分泌疾患による低血糖、ダンピング症候群など

脂質異常症：高コレステロール血症、高中性脂肪血症

甲状腺疾患：甲状腺機能低下症、橋本病、甲状腺機能亢進症、パセドウ病、甲状腺腫瘍

副腎疾患：アジソン病、原発性アルドステロン症、クッシング症候群、副腎腫瘍

下垂体疾患：汎下垂体機能低下症、尿崩症、下垂体腫瘍
骨粗鬆症

診療科紹介

当科は、高齢者の糖尿病治療では、伝統と実績のある施設の一つで、糖尿病、内分泌学会の専門医・指導医が複数在籍しています。以下のような診療の特徴があります。

個別性を重視した治療

認知機能、身体機能、社会環境など、患者さんの様々な条件を評価して、治療の方法を考え、QOL重視の医療を行っています。

柔軟性のある治療

2型の糖尿病患者さんでインスリン治療が困難な場合、インスリンの離脱や注射回数の減少などを試みます。

最新の治療

持続グルコースモニタリング（CGM）が可能で、リアルタイムCGM

が行えます。1型糖尿病患者へのインスリンポンプの導入も可能で、CGMとポンプが連動してインスリンを自動調整するハイブリッドクローズドループ療法も行えます。

チーム医療

糖尿病認定看護師（糖尿病看護外来）や糖尿病療養指導士の資格を持つ看護師、栄養士、薬剤師、理学療法士がおり、医師とチームで食事、運動、服薬、インスリン注射、血糖測定、フットケアなどの指導をします。

糖尿病教室

入院糖尿病教室を多職種で、また患者会（育寿会）と連携しながら外来糖尿病教室等を行っています。

内分泌疾患も甲状腺や下垂体、副腎疾患など豊富に扱っております。糖尿病患者さんのフレイル評価も行えます。

ご紹介のポイント

- ①血糖コントロール不良の方、とくに認知機能やADLが低下しており社会サポートが不足している方
- ②注射剤剤の中止や単純化、減薬が考慮される方
- ③CGMやインスリンポンプを導入したいが難しい方など、ご紹介いただけますと幸いです。当科では随時入院加療を行っているほか、糖尿病看護外来を開設し、上記のような療養上の問題のある方の療養支援を行っています。フットケアや糖尿病神経障害の検査も行えますので、糖尿病足病変のあるまたはリスクが高い方もご紹介いただけます。糖尿病患者さんのフレイル評価（認知機能、身体機能など）も可能です。

スタッフ紹介



氏名 田村 嘉章
たむら よしあき
役職 診療科長、部長
出身 東京大学（平成8年卒）
日本内科学会認定医：総合内科専門医
日本糖尿病学会専門医・指導医・評議員
日本老年医学会専門医・指導医・代議員
日本内分泌学会専門医・指導医 他



氏名 豊島 聖志
とよしま けんじ
役職 医長
出身 東京医科歯科大学（現：東京科学大学）
（平成16年卒）
日本内科学会認定内科医
日本老年医学会認定老年病専門医
日本糖尿病学会認定糖尿病専門医



氏名 大庭 和人
おおば かずひと
役職 専門医長
出身 北里大学（平成18年卒）
日本内科学会認定総合内科専門医
日本糖尿病学会認定糖尿病専門医
日本内分泌学会認定内分泌代謝専門医 他



氏名 小寺 玲美
こでら れみ
役職 専門医長
出身 東京慈恵会医科大学（平成22年卒）
日本内科学会認定総合内科専門医・研修指導医
日本糖尿病学会認定糖尿病専門医・指導医 他

常勤医

樋口 彩 ひぐち あや
森 さゆり もり さゆり

専攻医

山川 尚子 やまかわ なおこ

非常勤医

荒木 厚 あらき あつし（フレイル予防センター長補佐）
木下 大輔 きのした だいすけ
森 聖二郎 もり せいじろう

循環器内科

24時間体制の救急対応と専門チームで心臓と血管の疾患を支えます

対象疾患

心不全（急性、慢性）：心臓の機能が低下して、血液を送り出すポンプの働きが十分できなくなり、息れやむくみがでる状態です。至適な薬物治療、場合によってはデバイス治療（大動脈バルーンポンピングインペラ、補助循環、両心室ペースング）、手術なども検討します。心不全治療に対して、医師、看護師、薬剤師、理学療法士、栄養士、臨床工学技士、ソーシャルワーカーなどが高齢者のための心不全管理手帳を用いてハートチームとして連携しながら、総合的に対応いたします。

虚血性心疾患（狭心症、心筋梗塞）：心臓の筋肉に血液を送る冠動脈が動脈硬化や攣縮によって狭窄・閉塞する病気で、薬物治療・カテーテル治療・外科的手術を行います。外科的な冠動脈バイパス術が必要と判断された場合には、心臓血管外科と協力しながら治療を行います。

不整脈（心房細動・心房粗動・上室性頻拍・心室頻拍などの頻脈性不整脈、完全房室ブロック・洞不全症候群などの徐脈性不整脈）：心臓内に電気の伝導路ができて頻脈になったり、電気の伝わりが悪くなって徐脈になったりして、動悸・息切れ・失神などの症状が現れます。原因となる電気伝導路を焼灼アブレーションや、ペースメーカー植込み術などを行います。

心臓弁膜症（僧帽弁閉鎖不全・狭窄症、大動脈弁閉鎖不全・狭窄症など）：弁が緩んだり硬化することによって、血液が逆流したり通過障害をきたしたりする状態です。当センターは経カテーテルの大動脈弁置換術の施設認定を受けています。外科的弁膜症手術が必要であると判断された患者さんは、心臓血管外科との協力で治療を行います。

心筋症（拡張型心筋症・肥大型心筋症・アミロイドーシス、心サルコイドーシスなど）の診断治療も可能です。

深部静脈血栓・肺塞栓：下肢静脈に血栓が生じると、肺に塞栓を起こすことがあります。当センターでは肺塞栓の診断治療において一時的な大静脈フィルター挿入や体外循環を用いた治療も行うことが可能です。

高血圧：24時間自由行動下血圧測定を行い、積極的に仮面高血圧や白衣高血圧の診断を行っています。また、高齢者に多いとされる起立性低血圧や食後低血圧、フレイル（虚弱）、筋肉減少症（サルコペニア）、認知機能なども評価し、総合的に血圧管理しています。

診療科紹介

循環器内科では、心不全、虚血性心疾患、心臓弁膜症、不整脈、閉塞性動脈硬化症、深部静脈血栓や肺塞栓、高血圧、起立性および食後性低血圧など、高齢者における心血管疾患に幅広く対応しております。

外来は月～金曜日まで開設しております。東京都CCUネットワーク

(<https://www.ccunet-tokyo.jp/>) および大動脈スーパーネットワークを通じて、夜間休日も24時間体制で心臓病の救急搬送を受け入れ、緊急カテーテル治療にも対応しております。平日外来は予約制ですが、予約外での受診をご希望される際は、まずお電話でご相談ください。近隣の病院・開業医の先生に通院されている患者さんにおいても、連携を取りながら治療を行います。

循環器疾患のそれぞれの分野において専門的知識・技術を有するスタッフを擁しております。特に弁膜症、不整脈に関しては専門外来も設けて診療を行っています。心臓血管外科、血管外科とも連携しながら、ハートチームとして診断治療を行っています。高齢者に多い重症大動脈弁狭窄症に対する経カテーテルの大動脈弁置換や心房細動に対するカテーテルアブレーションも行っています。

高齢者は心不全で入院される患者さんが多いのが特徴です。入院前の状態に戻すことが目標ですが、高齢者は多臓器に合併症を有することが多く、認知機能障害、筋肉量低下、運動機能の低下が認められ、生活の質が低下してしまうことがあります。高齢患者さんに対しては、疾患発症や再発予防だけでなく、フレイル、サルコペニア、認知機能などを評価して、個々の状態に応じた栄養療法やリハビリテーションを行うことで生活の質を維持するように心がけています。当センターでは心不全看護外来も開設し、心不全患者さんが安心して継続的に受診できる環境を作っています。

高血圧に関しても24時間自由行動下血圧や家庭血圧を評価しながら適切な治療を行っています。高齢者は血圧変動が大きく、血圧管理に困難を来す患者が多く認められますが、起立性低血圧、食後低血圧などを認める患者においても適切な血圧管理を行うようにしています。

ご紹介のポイント

上記疾患が疑われる患者、治療に難渋している患者さんがいらっしゃいましたら、医療連携係にご連絡ください。緊急受診に関しては、循環器救急担当医または当直医（17：00～翌8：30）で対応いたしますので、病院代表番号（03-3964-1141）または循環器ホットライン（03-3962-8325）までご相談ください。

スタッフ紹介



氏名 石川 譲治
いしかわ じょうじ
役職 診療科長、部長
出身 自治医科大学 (平成6年卒)
日本内科学会総合内科専門医
日本循環器学会循環器専門医
日本超音波医学会超音波専門医・指導医 他



氏名 原田 和昌
はらだ かずまさ
役職 健康長寿医療研修センター長
出身 東京大学 (昭和60年卒)
循環器専門医・日本循環器学会地方評議員
資格 老年病専門医・日本老年医学会代議員
高血圧専門医・日本高血圧学会評議員 他



氏名 坪光 雄介
つばこう ゆうすけ
役職 専門部長、救急・集中治療科部長
出身 獨協医科大学 (平成5年卒)
日本循環器学会循環器専門医
日本心血管インターベンション治療学会専門医
資格 日本内科学会認定内科医



氏名 碓井 伸一
うすい しんいち
役職 専門部長、心臓カテーテル室長
出身 信州大学 (平成7年卒)
日本循環器学会循環器専門医
日本心血管インターベンション治療学会専門医
日本内科学会認定内科医



氏名 石山 泰三
いしやま たいぞう
役職 専門部長、不整脈治療担当医師
出身 東京医科大学 (平成8年卒)
日本内科学会認定内科医専門医
日本循環器学会循環器専門医
日本不整脈学会
日本心電学会認定不整脈専門医 他



氏名 藤本 肇
ふじもと はじめ
役職 担当部長
出身 東京大学 (平成8年卒)
日本心血管インターベンション治療学会専門医
日本内科学会総合内科専門医
ICD、CRT植込み登録医



氏名 小松 俊介
こまつ しゅんすけ
役職 医長
出身 東京医科大学 (平成20年卒)
日本内科学会総合内科専門医
日本循環器学会循環器専門医
産業医 他



氏名 二見 崇太郎
ふたみ しゅうたろう
役職 専門医
出身 九州大学 (平成23年卒)
日本内科学会総合内科専門医
日本循環器学会循環器専門医
日本超音波医学会超音波専門医 他

常勤医

十菱 千尋 じゅうひしちひろ
齋藤 義弘 さいとうよしひろ
両角 愛 もろずみ あい
松尾 礼 まつおれい
堀内 恒平 ほりうち こうへい

非常勤医

鈴木 歩 すずきあゆみ
谷口 泰 たにぐちとおる
中里 良 なかざとりょう
山本 文 やまもとあや
鳥羽 梓弓 とばあゆみ
宮内 祐弥 みやうちまさや

呼吸器内科

身体の状態や背景に深く配慮し無理のない最適な治療の選択を提案

対象疾患

原発性肺がん、悪性胸膜中皮腫、慢性閉塞性肺疾患（COPD）、間質性肺疾患、気管支喘息、気管支拡張症、睡眠時無呼吸症候群など、ほとんどすべての高齢者呼吸器疾患に対応しています。

肺結核、非結核性抗酸菌症についても、その診断・治療を行っていますが、排菌のある開放性結核症例には対応できません。

喀血症例についても、当センターでの対応は困難ですので、周辺医療機関の喀血センターなどへのご紹介を頂きますと幸いです。

喘息診療において重要な呼気NO（一酸化窒素）の測定は可能で、呼吸機能検査室でのモストグラフは2025年4月から可能になりました。

気管支鏡検査についても、超音波内視鏡や気管支ナビゲーションの活用、検査中の迅速細胞診（ROSE: rapid on-site evaluation）も行き、正確かつ低侵襲な検査を行うよう努めておりますが、気管支狭窄例に対するステント治療などの気管支インターベンションには対応できません。

診療科紹介

呼吸器内科では、老年医学の知見に基づいて、各種呼吸器疾患の包括的な診断と治療、およびケアを行っています。最新の診療ガイドラインに則った治療選択肢を提示することは当然ですが、実際に高齢患者さんに適用するうえでは、倫理面も含めた十分な配慮が必要です。昨今、肺がん診療においては、高齢者に対する過大治療・過小治療が問題になっています。

当センターでは高齢者機能評価によって、患者さんの多様な脆弱性を把握し、これを患者さんや介護者の方と共有した上で、治療の意思決定支援を行っています。そして、生活の質を最大限維持しながら、

がんと共生できるように支援しています。

気管支喘息や慢性閉塞性肺疾患（COPD）など、他の呼吸器疾患についても、患者さんそれぞれの生活機能を維持し、健康寿命を延伸する観点から治療方針を提案しています。例えば、COPDや喘息の患者さんにおける吸入療法の選択、喘息患者さんの生物学的製剤の導入などにあたって、患者さんそれぞれの身体的・精神心理的・社会的な脆弱性にまで配慮し、ご本人の意思を大切にしながら進めています。

ご紹介のポイント

幅広い呼吸器疾患の症状、診断・治療に対応していますが、「診療科の特徴」に記載いたしましたとおり、特に高齢者の肺がん診療においては国内でも有数の実績がありますので、ぜひご紹介ください。高齢肺がん患者さんについては、C@RNAから早期のご予約が可能ですのでご利用ください。肺がん以外の患者さんに関しましては、通常どおり、予約センターからのご予約をお願いしておりますが、予約をお急ぎのケースに関しましては、医療連携係（直通電話03-3579-6963）まで直接ご連絡ください。

スタッフ紹介



氏名 齋藤 朗
さいとう あきら
役職 診療科長、部長
出身 東京大学（平成10年卒）
日本内科学会総合内科専門医
日本呼吸器学会呼吸器専門医・指導医
資格 他

常勤医

佐塚 まなみ さつか まなみ
野木森 智江美 のぎもり ちえみ
李 昊 りこう



氏名 山本 寛
やまもと ひろし
役職 副院長、部長
出身 東京大学（平成9年卒）
日本呼吸器学会呼吸器専門医・指導医
日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門
医・指導医 他

非常勤医

村野 陽子 むらの ようこ



氏名 山田 浩和
やまだ ひろかず
役職 専門部長
出身 山梨医科大学（平成4年卒）
日本呼吸器学会呼吸器専門医・指導医
日本アレルギー学会アレルギー専門医・
指導医
資格 日本リウマチ学会リウマチ専門医 他

専攻医

賀代 千聡 かしろ ちさと
岩本 真一 いわもと しんいち
大江 裕哉 おおえ ゆうや

消化器・内視鏡内科

あらゆる消化器疾患に対応できるような体制を強化しています

対象疾患

消化器疾患全般を対象としていますが、中でもESD（食道・胃・大腸）やEUS-FNAといった治療内視鏡の適応疾患の診療を得意としています。

腫瘍性疾患：食道癌、胃癌、十二指腸癌、大腸癌、膵癌、膵嚢胞性腫瘍、胆管癌（胆嚢癌、胆管癌、十二指腸乳頭部癌）、肝細胞癌、神経内分泌癌など

消化管疾患：逆流性食道炎、胃潰瘍、十二指腸潰瘍、直腸潰瘍、憩室炎、虚血性腸炎、憩室出血、消化管異物誤飲、腸閉塞、炎症性腸疾患（潰瘍性大腸炎、クローン病）、好酸球性胃腸症など

胆膵疾患：総胆管結石、胆管炎、胆嚢炎、急性膵炎、慢性膵炎、自己免疫性膵炎、硬化性胆管炎など

肝疾患：肝膿瘍、ウイルス性肝炎、薬剤性肝炎、自己免疫性肝炎など

侵襲である内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）を積極的に行っており、大学病院と比較しても遜色ないような高難易度の症例も対応可能です。

高齢者に多い総胆管結石胆管炎や胆膵悪性腫瘍に対して、内視鏡的逆行性膵胆管造影術（ERCP）による診断や治療を行っています。また、膵癌・悪性リンパ腫・胃粘膜下腫瘍・肝腫瘍・などを穿刺して病理学的診断をつける超音波内視鏡下穿刺吸引術（EUS-FNA）も積極的に行っています。

肝炎ウイルス治療、肝硬変に伴う食道胃静脈瘤の内視鏡治療（EVL・EIS）、肝細胞癌に対するラジオ波焼灼術（RFA）、動脈塞栓術（TACE）も可能です。

ご紹介のポイント

ESDは、食道・胃・十二指腸・大腸と幅広く行っており、新体制となった2022年以降件数は徐々に増えています。

EUSは膵臓のみならず、リンパ節、胃粘膜下腫瘍などの穿刺も行い、高い診断率を得ています。さらに、膵炎後被包化壊死の穿刺ドレナージ術などのEUSに関連した様々なインターベンショナルEUSも積極的に取り組んでいます。

ERCPは、総胆管結石に伴う胆管炎の治療や胆道腫瘍の診断を目的に行っており、こちらも2022年以降件数は徐々に増えています。また、良性疾患のみならず、悪性胆道狭窄に対する金属ステントの留置も多数行っています。さらに、消化管術後胆道疾患にも積極的に小腸内視鏡を活用したERCPを施行しています。

消化管悪性腫瘍に伴う消化管狭窄を来した方にも、経口摂取が可能となる金属ステント留置も積極的に取り組んでいます。

診療科紹介

消化器・内視鏡内科では、2022年に新体制に移行してから東京大学医学部附属病院消化器内科と連携の上で内視鏡治療、各種抗腫瘍剤治療、薬物治療等、あらゆる消化器疾患に対応できるような体制を強化しています。

高齢者の多い当センターの特徴に即して、高齢者の病態を考慮し、安全かつ負担のない治療が行えるよう工夫し、鎮静剤を使用した苦痛のない上下部内視鏡検査を行っております。また、自宅での下剤内服等に不安のある方でも安心して検査を行って頂けるよう短期入院制度を取り入れています。

食道癌・胃癌・十二指腸癌・大腸癌に対して、手術と比較して低

スタッフ紹介



氏名 小野 敏嗣
おの さとし
役職 診療科長、部長
出身 東京大学(平成15年卒)
日本内科学会認定医・総合内科専門医・指導医
資格 日本消化器病学会専門医・指導医 他

常勤医

大隅 瞬 おおすみ しゅん
富野 琢朗 とみの たくろう
正谷 一石 まさたに かずし
佐藤 優樹 さとう ゆうき



氏名 保坂 祥介
ほさか しょうすけ
役職 専門医長
出身 愛知医科大学(平成20年卒)
日本内科学会認定医・総合内科専門医・指導医
資格 日本消化器病学会専門医・指導医 他

非常勤医

葦沢 龍人 あしざわ りゅうと
磯貝 純 いそがい じゅん
白石 光一 しらいし こういち



氏名 深川 一史
ふかがわ かずし
役職 専門医長
出身 佐賀大学(平成22年卒)
日本内科学会認定医・総合内科専門医・指導医
資格 日本消化器病学会専門医・指導医 他

専攻医

堀越 裕介 ほりこし ゆうすけ
杉井 壮大 すぎい たいけい
重松 大毅 しげまつ ひろき
福地 大貴 ふくち だいき
草間 亮佑 くさまりょうすけ

脳神経内科

専門医チームが救急疾患から高度な神経疾患まで幅広く診療します

主な対象疾患

脳梗塞、てんかん、頭痛、認知症などの一般的な神経疾患から、さまざまな神経難病まで幅広く診療しています。多くの患者様については、地域の先生方と連携しながら継続的に診療していくことを大切にしています。また、高齢者のみならず、若年層の神経疾患にも対応しています。当センターでは、国内でも限られた高度な検査を組み合わせ、正確な診断に努めています。原因不明とされてきた症状についても、受診いただくことで新たな手がかりが得られる可能性があります。

診療科紹介

脳神経内科は、脳、脊髄、末梢神経、筋肉など、全身の神経系に関わる疾患を診療する科です。救急対応を要する急性疾患から、在宅診療も含めた慢性疾患まで、幅広く対応しています。MRIやPETなどの先端医療技術を用いた診断は重要ですが、画像検査のみでは異常を捉えられない神経疾患も少なくありません。そのため、神経学的診察によって症状の原因部位を丁寧に見極め、各種検査を組み合わせることで診断に至ることが、この領域の大きな特徴です。さらに、研究段階でのみ実施可能な画像検査やバイオマーカー検査も活用し、先進

的な診断体制を整えています。加えて、最新の治療法や治験をいち早く導入し、高度な医療を提供していることも当科の強みです。

ご紹介のポイント

歩行障害、手足のしびれ、頭痛、もの忘れはもちろん、脳や神経の関与が少しでも疑われる症状があれば、どうぞ遠慮なくご紹介ください。脳神経内科の対象疾患は多岐にわたり、一見すると神経疾患とは分かりにくい病態が背景にあることもあります。結果として神経疾患でない場合もありますが、患者様に安心していただくためにも、まず専門的に評価することが重要と考えています。診断が確定し、慢性期の治療が安定した後は、地域の先生方との連携のもと、ともに患者様を支えていきたいと考えています。

スタッフ紹介



氏名 岩田 淳
いわた あつし
役職 副院長、診療科長
出身 東京大学(平成5年卒)
日本内科学会総合内科専門医
日本認知症学会専門医・指導医
資格 日本神経学会認定神経内科専門医・指導医 他



氏名 仁科 裕史
にしな やすし
役職 専門部長、脳卒中A担当部長
出身 福島県立医科大学(平成3年卒)
日本神経学会認定神経内科専門医・指導医
資格 日本内科学会認定内科医
認知症学会専門医・指導医 他



氏名 井原 涼子
いはらりょうこ
役職 専門部長、臨床開発ユニット長
出身 東京大学(平成14年卒)
日本内科学会総合内科専門医
日本認知症学会専門医・指導医
資格 日本神経学会認定神経内科専門医・指導医 他



氏名 坂内 太郎
ばんない たろう
役職 医長
出身 東京大学(平成21年卒)
日本内科学会総合内科専門医・指導医
日本神経学会認定神経内科専門医・指導医
資格 日本認知症学会専門医・指導医 他



氏名 栗原 正典
くりはら まさのり
役職 専門医長
出身 東京大学(平成24年卒)
日本内科学会総合内科専門医・指導医
日本神経学会認定神経内科専門医・指導医
資格 日本認知症学会専門医・指導医 他

常勤医

波多野 敬子 はたの けいこ
北村 明日香 きたむら あすか

非常勤医

江口 桂 えぐち けい
大南 伸也 おおみなみ しんや
金丸 和富 かねまる かずとみ
木村 友彦 きむら ともひこ
広吉 祐子 ひろよし ゆうこ
森本 悟 もりもと さとる
山田 一貴 やまだ かずき
嶋崎 亮介 しまさき りょうすけ

研究所所属医

齊藤 祐子 さいとう ゆうこ
石井 賢二 いしい けんじ
村山 繁雄 むらやま しげお
原 愛徒 はら まなと
青木 華古 あおき はなこ

専攻医

関 彩花 せき あやか
上村 創太 うえむら そうた
善光 みさと ぜんこう みさと
守田 脩究 もりた しゅうく
春名 孝太郎 はるな ことろう
山橋 弘靖 やまはし こうせい
鈴木 杏菜 すずき あんな
佐々木 瑛剛 ささき えいご
村岡 佑一郎 むらおか ゆういちろう

血液内科

多様な持病を考慮し安全性を重視した血液疾患の化学療法を行います

対象疾患

骨髄異形成症候群/急性骨髄性白血病/急性リンパ性白血病（血算の異常）

慢性骨髄性白血病/慢性リンパ性白血病（白血球増加）

多発性骨髄腫（総蛋白の増加、貧血を伴う腰痛）

悪性リンパ腫（リンパ節の腫大や不明熱）

再生不良性貧血（汎血球減少）

特発性血小板減少性紫斑病（血小板減少 出血傾向）

ビタミン欠乏性貧血

鉄欠乏性貧血

溶血性貧血

診療科紹介

当科では、主に血液悪性疾患を中心に診療を行っています。血液悪性疾患は若年者に比べ、発症率が高く、また、標準的治療が確立していない分野です。

65歳以上80歳未満の骨髄異形成症候群や急性骨髄性白血病に対して、治癒を目指した同種造血幹細胞移植を積極的に行っています。悪性リンパ腫や多発性骨髄腫も高齢者に多い疾患ですが、治療の進歩により副作用が少ない新規薬剤も多く開発されています。これら高齢者に合わせて治療を行っています。

採血にて白血球数増加/減少、貧血、血小板減少、免疫グロブリン

の異常やリンパ節腫大などがありましたら、ぜひご紹介ください。緊急時は直接ご連絡いただければ幸いです。

ご紹介のポイント

・健診では若年者を含んだ正常値が記載されていますが、高齢者では男女ともヘモグロビン値11g/dL未満を貧血として定義しています。ヘモグロビン値11g/dL未満の場合ご紹介ください。

・出血傾向は血小板減少を疑わせる重要な症状です。しかし、前腕を中心の皮下出血斑は老人性紫斑といわれ、血管の脆弱によるものです。血小板数は正常となります。

・貧血を認めた場合、小球性貧血は鉄欠乏性貧血が疑われます。採血にてFe/TIBC (UIBC) /Ferritinを測定してください。高齢者の場合は消化管出血の場合が多いので消化管の検査を先に行っていただければ幸いです。

・血算の異常があった場合は、血液疾患もさることながら薬剤性血液障害の場合もありますので、処方内容と開始日を明記していただければ幸いです。また、異常のあった検査結果だけではなく、過去のデータも添付していただければ幸いです。

・近年、診断技術が進歩し、特殊な検査をする必要がありますので、リンパ節腫大の場合は生検せずにご紹介ください。生検済みの場合は再生検が必要になり、負担が増えてしまいます。

スタッフ紹介



氏名 **小倉 和外**
おぐら かずと
役職 診療科長、医長
出身 防衛医科大学(平成10年卒)
日本内科学会認定内科医
日本内科学会総合内科専門医
日本血液学会血液専門医・指導医 他



氏名 **齋藤 輔**
さいとう たすく
役職 医長
出身 聖マリアンナ医科大学(平成15年卒)
日本内科学会認定内科医
日本血液学会血液専門医 他

常勤医

橘 盛昭 たちばな もりあき

非常勤医

小林 寿美子 こばやし すみこ

感染症内科

不明熱からワクチン相談まで幅広い感染症に専門医が対応します

対象疾患

外来では、肺炎、結核（リンパ節結核などの肺外結核を含む）、非結核性抗酸菌症などの呼吸器疾患、梅毒などの性行為感染症、発熱疾患全般の診療を行っています。インフルエンザ、新型コロナウイルス感染症、尿路感染症、皮膚軟部組織感染症などの急性感染症に関しては、救急外来や総合内科外来と連携をとりながら診療を行っています。

原因のはっきりしない発熱（不明熱）の原因は感染症以外の疾患であることも多いですが、感染症内科が窓口となることも多い領域です。不明熱で受診される患者さんでは、感染症（結核、ウイルス感染症、感染性心内膜炎、骨髄炎など）のみならず、悪性腫瘍、膠原病、内分泌疾患、血液疾患など様々な疾患が診断されます。

診療科紹介

多くの診療科が特定の臓器を専門としている中で、感染症内科は特定の臓器を対象としない臓器横断的な診療科です。高齢者における感染症は基礎疾患や臓器障害を背景に発症している例が多く、幅広い内科的知識に基づいた総合的な対応を必要とします。

細菌、真菌、ウイルス、寄生虫といった様々な病原微生物による感染症の知識を有し、自科で治療を担当したり、他診療科からの相談に対応しています。

様々な合併症を持った高齢者の感染症・発熱疾患に対応し、社会的背景も含めたバランスのとれた医療を心がけています。

センター内感染症対策の担い手として、安全・安心な病院を目指しています。

主に板橋区内の病院、診療所と連携し、地域の感染症対策の担い手を目指しています。

感染症予防に関しては、高齢者に対するワクチン接種に積極的に取り組んでいます。ワクチン外来では、肺炎球菌ワクチン（ニューモバックス）、インフルエンザワクチン、带状疱疹ワクチン（シングリックス）、

RSウイルスワクチン（アレックスビー）、破傷風トキソイド、B型肝炎ワクチンの接種を行っています。

ご紹介のポイント

原因のはっきりしない発熱や炎症反応が上昇している症例、抗生物質の効果が乏しい感染症疑いの症例、梅毒などの性行為感染症の症例の診療に対応いたします。また、接触者検診などで発見された潜在性結核感染症の診療も行っています。

予約を原則といたしますが、予約外でも緊急時には外来にて対応しております。

そのほか、高齢者のワクチン接種や、病院や診療所における感染対策に関する相談などがありましたら、感染症内科までお問い合わせください。

スタッフ紹介



氏名 小金丸 博
こがねまる ひろし
役職 診療科長、専門部長
出身 筑波大学（平成13年卒）
日本内科学会総合内科専門医
日本感染症学会感染症専門医
資格 ICD（インフェクション・コントロール・ドクター）他

非常勤医
吉田 敦 よしだ あつし

精神科

心の不調や認知症の症状に多職種チームで専門的な治療を行います

対象疾患

老年期の精神疾患

特にうつ病と幻覚や妄想を主症状とする精神病性障害

認知症の行動・心理状態（BPSD）の精査・治療

認知症・もの忘れの精査、診断、治療介入、介護者支援、当事者支援（もの忘れ外来）

・入院加療が必要と思われるケースは、認知症疾患医療センターにご相談くださいますとスムーズです。

・極端な身体状態の不良のある方は、まずは当センター内科系診療科にご相談ください。また、他の精神科や心療内科に通院中の方をご紹介いただく場合は、通院中の精神科・心療内科からの診療情報提供書も持参するようご説明くださいますと幸いです。

診療科紹介

高齢者を対象とした老年精神科として、うつ病、精神病性障害、神経変性疾患の精神症状、認知症のBPSD等、高齢者の精神障害の診断と治療を行っています。また、身体科病棟入院患者さんに対しては、年齢に関わらず総合病院の精神科としてコンサルテーションリゾン精神医学を実践しています。若年性認知症のBPSD対応や多職種支援も行っています。

30床の閉鎖病棟があり、入院加療を行っています。入院医療は急性期に特化しており、入院期間は1か月間が目安です。急性期の治療終了後の療養については精神保健福祉士をはじめ、多職種でサポートします。入院診療では、難治性のうつ状態や精神病性障害に対して、全身麻酔下での電気けいれん療法（修正型ECT）を積極的に施行しています。

ご紹介のポイント

・高齢者で精神症状がある方はどなたでもご紹介ください。高齢者のうつ症状や幻覚妄想状態では、ベースに認知症性疾患が隠れていることも稀ではありません。とくに、うつ病や精神病性障害で、一般的な治療に反応しない方や、通常の薬物療法を副作用で実施できない方がいればご紹介ください。

・高齢者に対する電気けいれん療法を積極的に施行しています。適応のある方を是非ご紹介ください。

スタッフ紹介



氏名 古田 光
ふるた こう
役職 診療科長、部長
出身 東京医科歯科大学（現：東京科学大学）
（平成8年卒）
資格 精神保健指定医
日本精神神経学会認定専門医・指導医
日本認知症学会認定専門医・指導医 他



氏名 松井 仁美
まつい ひとみ
役職 医長
出身 東京医科歯科大学（現：東京科学大学）
（平成21年卒）
資格 精神保健指定医
日本精神神経学会認定専門医・指導医
日本認知症学会認定専門医・指導医 他

常勤医

大森 佑貴 おおもり ゆうき
伊佐治 千明 いさじ ちあき

専攻医

花井 葉月 はない はづき
窪田 峻 くぼた しゅん

緩和ケア内科

がんと診断された時がんの治療中、治療が難しくなった時に心身の苦痛を和らげるケアを提供します

対象疾患

緩和ケア内科で診療を行うのは、がんと診断された患者さんとそのご家族です。がんの終末期だけでなく、がんと診断されたときや、がんへの抗がん治療中からでも受診できます。痛みや吐き気、呼吸苦など、がんの種類だけでなく部位や大きさでも症状はまったく異なりますので、早期からでも症状を落ち着かせて生活の質を向上させることを目標として対応いたします。

症状でお困りの方はもちろん、がんになって生じた様々な苦痛や苦悩（身体的苦痛、精神的苦痛、社会的苦痛、実存的苦痛）へ丁寧に対応してまいります。緩和ケアは患者さんのご家族のお困りへも対応しており、患者さんの療養や介護の問題、経済的問題など、担当ソーシャルワーカーや看護師を交えてともに考えてまいります。

診療科紹介

緩和ケア内科では、がんによる痛みや呼吸苦、倦怠感など、がんによる多岐にわたる症状に対応する治療を行っています。また、抗がん治療によって生じた有害事象へも対応いたします。これらのがんやがん治療による症状の緩和は、生活の質を保つだけでなく、積極的抗がん治療にしっかりと向き合うために、より早期から行うことが基本とされるようになってきました。しかしながら、患者さんやご家族にとって「緩和ケア」はまだ「末期の医療」とのイメージが色濃く残っていることは多く、なかなか緩和ケアを受けることにハードルを高く感じていらっしゃる方が多いのが実情です。

地域の先生方におかれまして、このようながんや治療に伴う症状にお困りの患者さんがいらっしゃいましたら、ぜひ「早期からの緩和ケア」をご提案いただき、当科へご紹介をいただけますと幸いです。医療用

麻薬処方をはじめとした症状緩和のためのお手伝いだけでなく、より強い症状となり入院が必要となった場合に、緩和ケア病棟での症状緩和治療/ケアの提供をいたします。

これからも当センター近隣の地域医療を支えていただいている先生方、看護師や薬剤師の皆様、ケアマネジャーの皆様と、密な連携や協力体制を築き、患者さんが最期の時までその人らしく過ごしていけるようお手伝いをしてまいりたいと考えております。

ご紹介のポイント

緩和ケア内科の外来には、外来通院で症状緩和治療などを行う「緩和ケア内科外来」と、将来病状が変化したときに緩和ケア病棟への入院を希望される方への相談および登録を行う「緩和ケア病棟入院相談外来」があります。

緩和ケア内科外来では、がん性疼痛をはじめとしたがんによる症状にお困りの患者さんにお気軽に受診いただけます。他院での治療中でも構いません。

緩和ケア病棟入院相談外来は、将来少しでも緩和ケア病棟への入院の可能性がある方に受診・登録いただけます。積極的がん治療中からでも、他院での治療中でも申し込み可能です。

スタッフ紹介



氏名 中島 豪
なかじま ごう
役職 診療科長、部長
出身 日本大学(平成11年卒)
日本緩和医療学会緩和医療専門医・指導医
資格 日本がん治療認定医機構がん治療認定医 他



氏名 小高 桂子
こたか けいこ
役職 医長
出身 東京女子医科大学(昭和63年卒)
日本緩和医療学会緩和医療専門医・指導医
資格 日本ペインクリニック学会認定専門医
日本麻酔科学会麻酔科指導医

常勤医

野木森 智江美 のぎもり ちえみ

消化器・一般外科

患者さんそれぞれに適した治療法を提案し術後の生活の質を大切にしたりより低侵襲な手術を提供します

対象疾患

- ・悪性腫瘍（胃癌、大腸癌、食道癌、肝臓癌、胆道癌、膵臓癌、乳癌など）、良性疾患（胆石症、ヘルニア、内痔核、直腸脱などの肛門部疾患）に対する外科手術治療を行っています。低侵襲な手術治療は胃癌や大腸癌に対する腹腔鏡下手術、ロボット支援手術に加えて、腹腔鏡による膵切除術、肝切除術も積極的に行っています。また、悪性腫瘍に対する化学療法や放射線治療も行っています。
- ・急性疾患として、腸閉塞（癒着性、絞扼性）、急性胆嚢炎、急性虫垂炎、消化管出血、消化管穿孔などにも迅速に対応しています。
- ・腹腔鏡手術外来、便潜血外来、肝胆膵専門外来、ストーマ外来などの専門外来を行っています。

診療科紹介

消化器領域の悪性疾患、良性疾患に対して、最新のエビデンスを重視しながらも患者さんのニーズに合わせた治療法をご提案し手術治療を行っています。疾患の診断や治療法の選択にあたっては、消化器内科や循環器内科、呼吸器内科、麻酔科など各専門診療科と協力しながら、併存疾患の多い高齢者の状態を総合的に評価した上で治療方針を検討しています。特に高齢者における外科治療では、癌の根治性だけではなく手術後も患者さんの生活の質（QOL）を維持することが重要です。疾患の進行度や患者さんの全身状態に合わせて、より低侵襲な腹腔鏡手術を積極的に行っており、特に直腸癌、結腸癌に対しては、新たにda Vinciサージカルシステムを用いたロボット支援手術を導入しています。肝胆膵領域の外科手術に対しては、肝胆膵外科学会高度技能専門医がすべての手術を担当しています。

高齢の患者さんが多い医療機関ではありますが、診療に際しての年

齢制限はありません。すべての年齢層の患者さんが受診していただけます。また、救急医療にも力を入れており、24時間/365日、2名の外科医によるオンコール体制で救急対応を行い、緊急手術などの急性期治療に対応しています。

ご紹介のポイント

“断らない医療”を心がけています。腹痛、下血、黄疸などの臨床症状のみで、まだ診断がついていない段階でご紹介いただいても構いません。

昨年より“急性腹症外科ホットライン”を開設しております。平日の9:00~17:00の間、03-3964-3260におかけいただければ、外科医が直接対応いたします。勿論、従来通り、医療連携係や外科外来にかけただけでも構いません。患者さんの状態に応じて、採血、画像診断、緊急内視鏡、緊急手術など、必要な対応を適宜行って参ります。仮に外科的な疾患ではなかったとしても、こちらで担当科と連携をとり対応致しますので、遠慮なさらずにご相談ください。

一般外来は予約を原則としていますが、予約センターで予約できない場合や緊急対応をご希望の場合は当センターの医療連携係（直通電話03-3579-6963）や外科外来まで直接ご連絡ください。早急に個別対応いたします。

スタッフ紹介



氏名 中里 徹矢
なかざと てるや
役職 外科総括部長、診療科長、部長
出身 杏林大学（平成12年卒）
日本外科学会専門医・指導医
日本消化器外科学会専門医・指導医
日本肝胆膵外科学会高度技能専門医・
評議員 他



氏名 金澤 伸郎
かなざわ のぶお
役職 診療科長、部長
出身 筑波大学（平成元年卒）
外科指導医・専門医
消化器外科指導医・専門医
資格 消化器病指導医・専門医
消化器内視鏡指導医・専門医 他



氏名 金 翔哲
きむ さんちよる
役職 専門医長
出身 杏林大学（平成23年卒）
日本外科学会専門医
日本消化器外科専門医・指導医
日本内視鏡外科学会技術認定医（大腸）
da Vinci Certificate取得 他



氏名 大森 春佑
おおもり しゅんすけ
役職 医員
出身 杏林大学（平成30年卒）
資格 日本外科学会専門医

非常勤医

阿部 展次 あべ のぶつぐ
阪本 良弘 さかもと よしひろ
松本 亮太 まつもと りょうた
小野澤 志郎 おのざわ しろう
立石 秀勝 たていし ひでかつ

専攻医

伊東 さら いとう さら
吉田 理紗 よしだりさ
小島 有紀子 こじま ゆきこ

心臓血管外科

安全な手術と徹底したリハビリで歩いて自宅への退院を目指します

対象疾患

冠動脈疾患：狭心症、不安定狭心症、急性心筋梗塞、オフポンプ冠動脈バイパス術、オンポンプ冠動脈バイパス術

心臓弁膜症：大動脈弁狭窄症、大動脈弁閉鎖不全症、僧帽弁狭窄症、僧帽弁閉鎖不全症、TAVI、弁置換術、僧帽弁形成術、感染性心内膜炎、三尖弁輪形成術

不整脈疾患：心臓弁膜症に合併した心房細動、メイズ手術、肺静脈隔離術、左心耳切除術

大動脈疾患：胸部大動脈瘤、胸腹部大動脈瘤、急性大動脈解離（A型・B型）、慢性大動脈解離、ステントグラフト治療、オープンステントグラフト治療

重症心不全：補助循環（ECMO,IABPなど）、補助人工心臓（体外設置型・Impella補助循環用ポンプカテーテルなど）

肺動脈疾患：肺塞栓症、肺高血圧

成人先天性心疾患：心房中隔欠損症、心室中隔欠損症、成人先天性心疾患に伴う心不全

診療科紹介

高齢者の心臓手術、大血管手術も積極的に行っております。どのようにしたら、手術を安全に乗り越えられ、歩いてご自宅に退院できるかを常に考えて、術前から呼吸練習、身体的リハビリ、栄養指導、可能な限り自己血貯血を行っています。術中は最も安全で効果的な術式を選択し、自己血を使用することで他家血輸血を使用せず無輸血を目指し、術後は早期離床を心がけて、積極的リハビリを行い、リハビリスタッフ、看護師、MEとカンファレンスしながら退院を目指してゆきます。

リハビリ病院を経由して自宅退院の方が好ましい場合は、リハビリ

病院を一緒に探して行きます。

日常診療においては循環器内科と密接に連携し、ハートチームを形成し、急性心筋梗塞やうっ血性心不全の緊急症例、胸部大動脈破裂や急性A型急性大動脈解離の緊急症例にも対応できる質の高い医療の提供に努めています。

当センターは東京都CCUネットワーク、急性大動脈スーパーネットワーク (<https://www.ccunet-tokyo.jp/acute-aorta>) に加盟していません。

ご紹介のポイント

心臓・大動脈疾患でお困りの患者さん

高齢で手術できるか分からないけど、どうしたら良いのだろうか？

手術が必要かどうかは、分からないけど心臓血管外科専門医・指導医からの説明を患者さん、ご家族にしてあげて欲しい!という場合は是非、ご紹介いただくと幸いです。

大きな手術は大学病院でしかできないのではないかとお思いの場合も、気軽に相談いただければ、当センターでどのような方法で対応できるか、お答えいたします。

当センター心臓血管外科では実際に大きな心臓大血管手術も安全に行っております。

スタッフ紹介



氏名 河田 光弘
かわた みつひろ
役職 診療科長、部長
出身 浜松医科大学 (平成9年卒)
外科認定医・専門医・指導医
心臓血管外科専門医・修練指導者
循環器専門医 他

非常勤医

許 俊鋭 きよしゅんえい
小野 稔 おの のり
木下 修 きのした おさむ



氏名 乾 明敏
いぬい あきとし
役職 医長
出身 東京大学 (平成19年卒)
日本外科学会外科専門医
心臓血管外科専門医認定機構心臓血管外科専門医

竹谷 剛 たけたに つよし
山本 真由 やまもと まさよし
近藤 浩史 こんどう ひろふみ



氏名 村田 知洋
むらた ともひろ
役職 医員
出身 和歌山県立医科大学 (平成22年卒)
外科認定医・専門医
心臓血管外科専門医
胸部ステントグラフト実施医 (Gore TAG)
TAVR実施医 (SAPIENシリーズ)

吉鷹 秀範 よしたか ひでのり
林田 健太郎 はやしだ けんたろう
鳥飼 慶 とりかい けい

血管外科

血管疾患は血管外科に任せて下さい

対象疾患

腹部大動脈瘤、下肢動脈疾患、下肢静脈瘤が診療の中核となりますが、難治性の下腿浮腫や足趾潰瘍の治療にも取り組んでおります。緊急で手術施行しなければ救命できない、大動脈瘤破裂や重篤な大動脈解離、急性下肢動脈閉塞、下腿壊疽の治療も、科の使命として可能な限り受け入れております。また透析アクセストラブルの紹介に関しては、即日に対応するよう心がけております。血管外科は高齢でかつ状態不良な方の治療を担当する場合も多いですが、各科と連携して可能な限り安全に治療を行うよう配慮しています。

診療科紹介

血管外科は頭頸部から下肢までの動静脈・リンパ管疾患が診療の対象となります。同一疾患であっても部位と重症度により治療方針が大きく変わるため、豊富な診療経験に基づいて個々の方に最適な治療を提案します。当科では下腿浮腫から末梢動脈疾患、大動脈疾患まで実に幅広い血管疾患の紹介を受けておりますが、まず治療が必要な状態であるかどうかを正確に診断して、不要な手術は行わないことを遵守しております。

その上で手術加療が必要な場合は、可能な限り低侵襲で最小限の手技を行うことを心がけております。

経験豊富な専門医に診てもらいたい、納得のいく診療を受けたい。そんな切実な欲求に応えるために、血管外科は存在します。血管疾患と診断されて不安を抱えている方は、是非受診を検討して下さい。

最後にこれまで頂いた感謝の言葉を記載します。

"足が軽くなり元通り歩けるようになりました、手術を受けて本当に良かったです" (48歳女性)

"浮腫みが減って自分の足で立っている感覚を取り戻しました。本当に信じられません" (46歳女性)

"血管外科があるのは知っていたけれど、受診するのをためらっていました。悩まずにもっと早く治療を受ければよかった。足の調子は手術前と全然違います、痛みも有りません。色々有難うございました" (76歳男性)

"長年爆弾をかかえて生活しておりましたのを、先生に蘇生させて頂き本当に感謝しております。余命を大事に生きて参ります" (89歳男性)

ご紹介のポイント

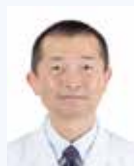
"適正な血管診療を迅速に提供する"ことを目指しております。

特に下記に該当する方をご紹介下さい。

緊急受診をご希望の場合は医療連携係03-3579-6963にご連絡下さい (平日9:00-17:00)。

- 胸部もしくは腹部大動脈瘤と診断された方
- 下肢動脈閉塞、頸動脈狭窄が疑われる方
- 難治性の下腿浮腫や潰瘍がある方。下肢静脈瘤を認める方
- 深部静脈血栓症が疑われる方
- 内臓動脈瘤などの動脈疾患を指摘された方
- 透析アクセス関連のトラブルなど

スタッフ紹介



氏名 河田 光弘
かわた みつひろ
役職 診療科長、部長
出身 浜松医科大学(平成9年卒)
資格 外科認定医・専門医・指導医
心臓血管外科専門医・修練指導者
循環器専門医 他



氏名 松倉 満
まつくら みつる
役職 専門部長
出身 京都府立医科大学(平成17年卒)
資格 心臓血管外科専門医認定機構心臓血管外科専門医
日本脈管学会脈管専門医
日本循環器学会循環器専門医 他



氏名 牧野 能久
まきの よしひさ
役職 専門医
出身 東北大学(平成19年卒)
資格 日本外科学会外科専門医
日本脈管学会脈管専門医
心臓血管外科専門医認定機構心臓血管外科専門医



氏名 乾 明敏
いぬい あきとし
役職 医長
出身 東京大学(平成19年卒)
資格 日本外科学会外科専門医
心臓血管外科専門医認定機構心臓血管外科専門医



氏名 村田 知洋
むらた ともひろ
役職 医員
出身 和歌山県立医科大学(平成22年卒)
資格 外科認定医・専門医
心臓血管外科専門医
胸部ステントグラフト実施医(Gore TAG)
TAVR実施医(SAPIENシリーズ)

非常勤医

高山 利夫 たかやまとしお
戸谷 直樹 とやなおき

脳神経外科

脳卒中から水頭症まで多彩な術式で脳外科医療を提供します

対象疾患

脳出血、脳梗塞、くも膜下出血
 未破裂脳動脈瘤、頸動脈狭窄症、頭蓋内血管狭窄・閉塞症
 脳・脊髄動静脈奇形、脳・脊髄硬膜動静脈瘻
 三叉神経痛、顔面けいれん
 頭部外傷、慢性硬膜下血腫
 特発性正常圧水頭症
 脳腫瘍（髄膜腫・神経鞘腫・神経膠腫・転移性脳腫瘍など）
 その他、小児を除く脳神経外科一般

診療科紹介

当センターは脳卒中学会認定の一次脳卒中センターとして、脳梗塞、脳出血、くも膜下出血を含めた脳卒中に対する治療を積極的に行っております。急性主幹動脈閉塞に対するtPA静注療法と経皮的脳血栓回収術は24時間365日実施できる体制を維持しており、東京都脳卒中急性期医療機関S（血栓改修療法実施）施設にも認定されました。脳卒中のための集中治療室である脳卒中ケアユニットは15床を有し、近隣の医療機関にない規模であると考えます。脳神経内科およびリハビリテーション科を含めた多職種連携を通じて、より積極的に脳卒中患者さんを受け入れるための体制を構築しております。さらに、当センターの使命として高齢者特有の脳神経外科医療を数多く実践しております。高齢者に多い、頸動脈・頭蓋内血管の狭窄症・閉塞症、脳動脈瘤などの脳血管障害に対しては、顕微鏡下直達手術、脳血管内治療の双方が可能であり、患者様の年齢や体力に応じて、最適かつ安全な医療提供を行っております。また、正常圧水頭症に関しては、

水頭症専門外来を設置し厳密に適応を考慮した上で年間50例以上の手術を実施しております。

高齢者疾患のみに特化していると思われるかもしれませんが、年齢に限らず、幅広い脳神経外科医療を提供しています。脳腫瘍・脳動静脈奇形摘出術、微小血管減圧術（三叉神経痛・片側顔面痙攣）など、幅広い疾患に対する治療が可能で、体制拡大とともに手術件数も経時的に増加しております。

ご紹介のポイント

通常外来は予約を要しますが、予約外の受診もお受けいたします。緊急症例は救急外来で即時対応しております。脳卒中ホットライン（080-4116-1141）にて直通で対応し、スムーズにご紹介のお受け入れが可能です。

当センターの重点医療として脳卒中を含めた心血管医療がございす。高齢者に限らず多数の脳卒中症例を受け入れており、脳血管障害治療は当センターの得意とするところです。また、高齢者に多い三叉神経痛や脳腫瘍を含めた開頭手術も積極的に行なっております。

また、当センターは高齢者疾患としての正常圧水頭症の治療実績が豊富です。「水頭症専門外来」を設置して対応しております。小児疾患を除き、多くの疾患が対応可能ですので、年齢に限らず是非当センターにご紹介をいただければと存じます。

スタッフ紹介



氏名 角田 翔
 つのだしろう
役職 診療科長、医長
出身 山形大学（平成24年卒）
 日本脳神経外科学会専門医指導医
 日本脳卒中の外科学会認定技術指導医
資格 日本脳卒中学会脳卒中専門医指導医

非常勤医

井上 智弘 いのうえともひろ
 上野 俊昭 うえのとしあき
 小泉 聡 こいずみさとし
 幸田 俊一郎 こうだしゅんいちろう
 後藤 芳明 ごとうよしあき



氏名 高梨 成彦
 たかなししげひこ
役職 専門部長
出身 帝京大学（平成14年卒）
 日本脳神経外科学会専門医
資格 日本脳神経血管内治療学会専門医

辛 正廣 しんまさひろ
 西山 恭平 にしやまきょうへい
 長谷川 洋敬 はせがわひろたか
 平田 猛 ひらたたくる
 田澤 嵩也 たざわたかや

常勤医

横井 利光 よこいとしみつ

高橋 満里菜 たかはしまりな
 大塚 のぞみ おおつかのぞみ
 澁江 昭利 しづえあきとし
 久保山 まりか くぼやまりか

呼吸器外科

多様な併存疾患（持病）を考慮し他科と連携して安全な呼吸器手術を行います

対象疾患

各診療科と連携して低侵襲かつ積極的に外科的切除・生検（診断・治療）を行っています。

悪性腫瘍：原発性肺癌、転移性肺腫瘍、縦隔腫瘍、胸壁腫瘍など

良性腫瘍：過誤腫など

良性疾患：気胸（自然気胸・続発性気胸）

感染性疾患：膿胸・肺膿瘍（非定型抗酸菌症・アスペルギルスなど）

胸部外傷：外傷性血胸・外傷性気胸など

その他：原因不明なリンパ節腫大、胸膜肥厚など

上記疾患に関して、若年から超高齢者まで幅広く対応しております。

診療科紹介

呼吸器外科：呼吸器外科医3名が在籍し、肺・縦隔・胸膜・胸壁などの胸部疾患を中心に、幅広い疾患の診断および治療（手術）を行っています。

内視鏡手術支援ロボット：ダ・ヴィンチXiシステム導入

当センターでは2024年より内視鏡手術支援ロボット「ダ・ヴィンチXiシステム」を導入し、肺葉切除・縦隔腫瘍切除に対し、積極的に適応しております。手術は基本的に低侵襲術である「内視鏡手術：ロボット支援下手術、胸腔鏡手術」を行っており、疾患の進行具合に合わせて適宜「開胸手術」にも対応しています。

ロボット支援下手術：1cm創部を4か所、2-4cm創部を1か所（計5か所）

胸腔鏡下手術：1cm創部を2-3か所、2-4cm創部を1か所（計3-4か所）

開胸手術：8-15cm創部で手術を行います。肋骨や筋肉は可能な限り温存し必要時に切除します。

当科の特徴：他の医療機関と比較して当センターは高齢の患者さんが多く、手術を受けられる多くの方に心疾患・腎疾患・糖尿病などの併存疾患がみられます。そのため病院全体で高齢者医療に特化し、その特性を生かして他科と連携しながら手術前後の全身管理を行っています。

また当科では、ほぼすべての患者さんに術前の筋力・認知機能評価（フレイル評価）を実施し、その結果をもとに個々の全身状態に応じて手術適応を慎重に判断しています。高齢者の周術期リスク管理で培った経験を生かし、全年齢層において安全性の高い手術を心がけています。さらに、10～20歳代の若年者の自然気胸などの疾患にも対応しています。

ご紹介のポイント

ご紹介後は速やかに全身精査を行い、通常の検査に加えてフレイル評価なども実施し、患者さん一人ひとりに適した治療方針を検討します。治療内容については、呼吸器内科・放射線治療部・病理診断科と連携し、多角的に判断いたします。

70～80歳代の高齢の方はもちろん、若年者の治療にも対応しております。年齢に関わらず、ご不安な点やご質問がございましたら、どうぞお気軽にご相談ください。

スタッフ紹介



氏名 土屋 武弘
つちや たけひろ
役職 診療科長、専門部長
出身 筑波大学（平成18年卒）
外科専門医
資格 呼吸器外科専門医
呼吸器外科評議員 他



氏名 安楽 真樹
あんらく まさき
役職 副院長、部長
出身 鹿児島大学（平成8年卒）
外科専門医
資格 呼吸器外科専門医
呼吸器外科評議員 他

常勤医

阿瀬 孝治 あせ こうじ

整形・脊椎外科

背骨や関節の不調に対し専門分野の連携で健やかな歩みを支える

対象疾患

頸部から下、四肢や体幹の骨折・外傷、変形・変性、神経障害、炎症性疾患などによる疼痛や機能障害など、整形外科領域の疾患を対象としています。

脊椎疾患：腰部脊柱管狭窄症、頸椎症性脊髄症、脊椎圧迫骨折後偽関節

関節疾患：変形性膝関節症、変形性股関節症

外傷：大腿骨頸部骨折、大腿骨転子部骨折、橈骨遠位端骨折、膝蓋骨骨折、肘頭骨折、上腕骨顆上骨折

手外科疾患：手根管症候群、肘部管症候群（絞扼性神経障害）

診療科紹介

加齢に伴う関節疾患、外傷、脊椎疾患、絞扼性神経障害などを主に整形外科領域全般について扱っています。四肢・関節の腫れや痛み、頸部痛・腰痛、肩関節痛、手足のしびれ、歩行障害などの症状を対象としております。

人工膝関節置換術、人工股関節置換術、頸椎椎弓形成術、腰椎椎弓切除術、インストルメント使用脊椎固定術、BKP（経皮的椎体形成術）、手根管開放術、大腿骨近位部骨折に対する骨接合術、人工骨頭置換術などを行っています。

<専門性を持つ医師の集合体としてのチーム医療>

当科は専門性の必要な脊椎外科・股関節外科・膝関節外科をベースとし、各専門医の協力・連携により相乗効果を発揮したチーム医療を行います。

<高齢者にマッチした入院・周術期管理>

当センターは内科全般、歯科口腔外科、精神科など全科をもつ総

合病院です。入院中のサポートはもちろん、外来通院の手術計画段階から患者さんの特性に応じた各科介入を行い治療の安全性を高めます。

<教育病院としてベテラン医師と若手医師の協調>

当科は東京大学を基幹とする整形外科専門研修プログラムに参加しています。ベテラン医師の技術・経験と若さ溢れる後期研修医のエネルギー・機動力がミックスされた医療を行います。

ご紹介のポイント

月・火・木・金の初診外来とは別に、火・金午後には脊椎外科の初診外来を開いています。また、毎週月・木・金午後に人工関節初診外来・股関節外来・膝関節外来を開いています。

<脊椎外科で手術治療が必要になるタイミング>

①しびれや痛み、脱力（麻痺）などによって、上肢の機能（箸や書字、ボタンはめ・はずすなど手の細かい動作、関節の屈伸運動、筋力など）が低下している、②下肢の機能（立ち上がり、座り動作、歩行能力など）が低下しているなど

<膝・股関節で手術治療が必要になるタイミング>

心臓など特に大きな病気がなく、膝・股関節の痛みが原因で日常生活活動度ADLに支障（家に引きこもりがちになるなど）が出ており、痛み止めの内服・関節注射・理学療法などで効果が認められない場合など

整形・脊椎外科の手術の場合、手術を行うかどうかは最終的に患者さん自身のご希望に沿うような形で対応しています。

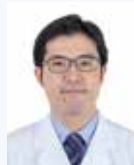
スタッフ紹介



氏名 宮崎 剛
みやざき つよし
役職 診療科長、部長
出身 東京大学（平成5年卒）
日本整形外科学会専門医
日本リウマチ学会認定専門医
日本リウマチ学会評議員 他



氏名 金子 泰三
かねこ たいぞう
役職 専門医
出身 九州大学（平成20年卒）
日本整形外科学会専門医
日本人工関節学会認定医
日本骨粗鬆症学会認定医 他



氏名 早川 謙太郎
はやかわ けんたろう
役職 専門部長
出身 東京大学（平成14年卒）
日本整形外科学会専門医
日本脊椎骨髄病学会認定脊椎骨髄外科
専門医・指導医
日本整形外科学会認定脊椎骨髄病医 他

常勤医

金子 雅子 かねこ まさこ
河田 学 かわた まなぶ
柳 真人 やなぎ まさと
風李 潤済 かざり ゆんじえ



氏名 濱路 博
はまじ ひろし
役職 医長
出身 東京大学（平成7年卒）
日本整形外科学会認定整形外科専門医
日本整形外科学会認定運動器リハビリ
テーション医
日本骨粗鬆症学会認定医 他

非常勤医

時村 文秋 ときむら ふみあき
石橋 英明 いしばし ひであき
穴水 依人 あなみず よりと

皮膚科

皮膚病変を詳しく解析し持病や生活状況に応じた最適な治療を

対象疾患

一般的皮膚疾患（湿疹・皮膚炎、虫刺され、熱傷、水虫、疥癬、爪疾患）の診療

痒み疾患（皮脂欠乏性湿疹、皮膚掻痒症、アトピー性皮膚炎、蕁麻疹、薬疹・中毒疹、痒疹、疥癬等）の精査や治療

重症の皮膚感染症（带状疱疹や丹毒・蜂巣織炎など）の治療

水疱性類天疱瘡の入院治療

膠原病関連疾患（皮膚筋炎、強皮症、血管炎など）の皮膚症状の診断と治療

下肢の皮膚潰瘍や血行障害性皮膚変化の精査と治療

口腔粘膜疾患の診断と治療

乾癬、アトピー性皮膚炎、蕁麻疹の生物学的製剤やヤヌスキナーゼ阻害薬の治療も承認病院として実施可能です。

皮膚癌（日光角化症、ボーエン病、基底細胞癌、有棘細胞癌など）の診断と治療

診療科紹介

・皮膚病変を臨床診断し、高齢者の特性（内科・外科的合併疾患の有無、日常生活動作の状態、要介護度、生活状況など）を考慮して診療方針を決定します。必要な場合は各種検査（血液・尿検査、超音波・CTなどの画像検査、ダーモスコピー<皮膚病変の拡大・深達性観察検査>、皮膚生検、皮膚アレルギー反応検査<パッチテスト、ブリックテスト、内服テストなど>など）を行い、最終的に確定診断をくだします。

・治療は疾患により外用、内服、注射、点滴、光線、放射線、手術等の各療法を単独・併用して行います。皮膚病変のみならず、個々

の患者さんのQOL（quality of life：生活の質）に配慮した治療を実施しています。

・治療や診断により高度な専門性（整容的手術、集学的治療を要する悪性腫瘍など）が必要と考えられる場合は他の専門拠点病院へ紹介させていただくことがあります。また、入院患者さんの皮膚疾患が治療により急性期を過ぎて長期の加療・ケアを要する慢性期の状態になり、在宅での治療継続が困難な場合は、長期療養型病床の病院への転院をお願いすることもあります。

ご紹介のポイント

・皮膚や口腔・陰部など視診が可能な領域の症状であればどのような症状でも診察致します。

・高齢者に限らず、成人患者さんの診療も行っています。

・重症/広範囲熱傷は三次救急のある施設へのご紹介をお願いします。

・集学的治療を要する悪性腫瘍が疑われる場合は大学病院や癌専門病院への紹介もご検討ください。

・美容皮膚科で通常行われるレーザー治療、ケミカルピーリングなど自費診療が対象となる症状については対応しておりません。

スタッフ紹介



氏名 種井 良二
たねいりょうじ
役職 診療科長、部長
出身 北里大学(昭和62年卒)
資格 皮膚科専門医

常勤医

宮澤 理恵子 みやざわりえこ

泌尿器科

ロボット手術や豊富な実績で前立腺治療や尿路がん専門対応

対象疾患

腎細胞癌

尿路上皮癌＜膀胱癌・尿管癌・腎盂癌＞

前立腺癌

副腎腫瘍

前立腺肥大症

過活動膀胱

低緊張性膀胱を含む神経因性膀胱

夜間頻尿

尿路結石（腎結石・尿管結石・膀胱結石）

尿路感染症（結石性腎盂腎炎・急性前立腺炎・精巣上体炎）

尿管狭窄

腎盂尿管移行部狭窄

予約を原則といたしますが、予約外でも緊急時には救急外来にて対応しております。

診療科紹介

当科は排尿障害（前立腺肥大症・過活動膀胱・低緊張性膀胱を含む神経因性膀胱・夜間頻尿）尿路悪性腫瘍（腎細胞癌・尿路上皮癌＜膀胱癌・尿管癌・腎盂癌＞・前立腺癌・副腎腫瘍）尿路結石、尿路感染症に対する治療を行っています。

腎臓癌：腹腔鏡下手術、あるいは免疫チェックポイント阻害剤+TKI療法

尿路上皮癌：腹腔鏡下手術、膀胱癌はPDD（光力学的診断による）経尿道的膀胱腫瘍切除術、抗がん剤治療、免疫チェックポイント阻害剤、エンホルツマブ療法など

前立腺癌：ロボット支援内視鏡的前立腺摘除術（：da Vinci Surgical System™ Xi (Intuitive Surgical社)）、ホルモン療法、ホルモン療法+IMRT（放射線）

※前立腺全摘除術では頭を25°下げた姿勢で手術を行うため、脳動脈瘤や緑内障の患者さんの一部はロボット支援手術を受けることが出来ないこともあります。

前立腺肥大症：ツリウムレーザー蒸散、経尿道的前立腺切除（TUR-P）特に経尿道的前立腺切除（TUR-P）は他院に比べ圧倒的な経験数を誇っています。

手術のレベルはかなり良いと考えています。

ご紹介のポイント

血尿、尿の回数が多い、尿が出ない（出づらい）、おしっこが漏れちゃう、尿が出なくなった。排尿痛、わき腹の痛み+発熱、PSAが高値などありましたら受診依頼お願いします。

泌尿器科に関して気にかかることがあれば気楽にご紹介ください。

スタッフ紹介



氏名 粕谷 豊
かすや ゆたか
役職 診療科長、部長
出身 愛媛大学（平成2年卒）
資格 日本泌尿器科学会専門医・指導医
日本がん治療認定医機構暫定教育医



氏名 佐々木 賢一
ささき けんいち
役職 専門医長
出身 北里大学（平成25年卒）
日本泌尿器科学会泌尿器科専門医・指導医
資格 がん治療認定医
日本医師会認定産業医 他

常勤医

須山 光 すやま ひかる
開地 幸恵 かいち さちえ

非常勤医

角谷 成紀 かくたに しげのり

眼科

白内障から網膜疾患まで身体の状態に合わせた治療を

対象疾患

白内障：ほぼ全例で、局所麻酔下の小切開白内障手術を行っております。

網膜疾患：加齢黄斑変性、糖尿病網膜症、糖尿病黄斑浮腫、網膜静脈閉塞症、近視性脈絡膜新生血管など抗VEGF療法や網膜光凝固（レーザー治療）を必要とする疾患

網膜疾患：網膜前膜、黄斑円孔、硝子体出血、網膜剥離など硝子体手術を必要とする疾患

緑内障：薬物療法をfirst choiceとし、選択的レーザー線維柱帯形成術（SLT）や、手術治療として、現在は主に低侵襲緑内障手術（線維柱帯切開術・眼内法）を行っております。

ぶどう膜炎

翼状片や結膜嚢胞などの結膜疾患

角膜移植や美容整形に該当する眼瞼手術には対応しておりません。

診療科紹介

白内障、黄斑部疾患をはじめとする高齢者に多い眼疾患を幅広く診療しております。当科では、年間約1,500件の白内障手術を行っており、常に最良の手術が安全に提供できるよう、スタッフ一丸となり取り組んでおります。手術前の検査や説明は外来通院時に行い、多くの方は1-2回程度で（目の病気が複数ある場合や体の病気の状態が安定していない場合は、複数回の通院が必要です。）、術後は早期にご紹介元への通院再開ができるように心がけております。

白内障手術は、入院当日に手術（月曜から金曜）を行い、ご希望に合わせて日帰り入院または1泊2日程度の入院手術で対応しております。“日帰り入院”では、手術前後（日中）に病室でお休みいただくことができるため、ご高齢の方でも安心して手術を受けていただくことができますが、日帰り手術でも必ず手術翌日朝の診察は必要です。

硝子体出血や黄斑円孔、網膜前膜、網膜剥離などでは小切開硝子体手術（年間約60件）、加齢黄斑変性・網膜静脈閉塞症に伴う黄斑浮腫・糖尿病黄斑浮腫には抗VEGF療法（年間約500件）、緑内障に対する低侵襲緑内障手術など（年間約40件）、患者さんの状態に合わせて可能な治療を提供しております。

ご紹介のポイント

白内障が高度に進行すると、手術時間が長くなり、本人の苦痛も大きく、さらに手術後の視力の回復も遅れます。また認知症が進行してからは、正確な検査が行えず、局所麻酔下の手術が不可能となり、全身麻酔で行うためには心臓や肺などの精査が必要で、その結果手術を受けられない患者さんもおられます。通院中の患者さんには、局所麻酔下での手術と術後の点眼やセルフケアが可能な年齢のうちに手術についてお話しいただき、ご紹介をいただけますよう、よろしく願い申し上げます。また、眼科では、散瞳薬を使った眼底検査が必要ですので、患者さんには来院時車の運転（自転車も）はお控えいただけますように、お伝えください。

スタッフ紹介



氏名 善本 三和子
よしもと みわこ
役職 診療科長、部長
出身 筑波大学（平成元年卒）
日本眼科学会眼科専門医
身体障害者福祉法指定医
難病指定医 他



氏名 池上 靖子
いけがみ やすこ
役職 医長
出身 奈良県立医科大学（昭和61年卒）
日本眼科学会眼科専門医
身体障害者福祉法指定医
難病指定医 他



氏名 戸田 淳子
とだ じゅんこ
役職 医長
出身 東京女子医科大学（平成10年卒）
日本眼科学会眼科専門医
身体障害者福祉法指定医
難病指定医



氏名 大島 博美
おおしま ひろみ
役職 医長
出身 群馬大学（平成16年卒）
日本眼科学会眼科専門医
身体障害者福祉法指定医
難病指定医 他



氏名 山本 裕樹
やまもと ひろき
役職 専門医長
出身 三重大学（平成19年卒）
日本眼科学会眼科専門医
身体障害者福祉法指定医
難病指定医 他

専攻医

福尾 美和子 ふくお みわこ
松村 愛里 まつむら あいり
阿部 友紀 あべ ゆき

常勤医

高尾 博子 たかお ひろこ
沼賀 由佳 ぬまが ゆか

非常勤医

坂田 礼 さかた れい
青木 彩 あおき あや

耳鼻咽喉科

耳・鼻・のどの不調に対しお一人おひとりの生活を整える診療を

対象疾患

耳：加齢性難聴・慢性中耳炎・真珠腫性中耳炎・突発性難聴・顔面神経麻痺（人工内耳手術を行う施設認定を取得しております。）

鼻：慢性副鼻腔炎・好酸球性副鼻腔炎・術後性上顎洞嚢胞・鼻中隔彎曲症・アレルギー性鼻炎・副鼻腔乳頭腫・睡眠時無呼吸症候群（構造評価から無呼吸テスト、必要に応じた治療まで行う体制が整っています。）

のど：声帯ポリープ・ポリープ様声帯・反回神経麻痺・嚥下障害・急性扁桃炎・扁桃周囲膿瘍・急性喉頭蓋炎（気道緊急が疑われる症例は、医療連携係経由で当科にご相談ください。人員や病床の状況によってはご相談させていただくことがあります。）

頭頸部腫瘍：頭頸部がん・甲状腺腫瘍・唾液腺腫瘍（検査・診断を行ったうえで、東京科学大学等の大学病院に紹介しております。）

ご紹介のポイント

月・水・金は2診体制のため、聴力検査等の検査が混雑していることが多いです。補聴器希望でご紹介いただく場合は、必要な検査に時間を要するため、火・木の予約枠を取得して頂けますと幸いです。

嚥下障害の診察をご希望の場合は、奇数週の水曜日に嚥下外来を行っておりますので、直接こちらの予約を取得することが可能です。

頭頸部腫瘍に関しては、検査・診断まで行う事は可能ですが、診断後は基本的に大学病院等に紹介させて頂いております。

気道緊急が疑われる症例につきましては、医療連携係経由でご相談ください。人員や病床の混雑状況によってご相談させていただく可能性がございます。

診療科紹介

耳鼻咽喉科では耳・鼻・口腔・咽喉頭・頸部領域の疾患の診療を行っています。耳鼻咽喉科領域の疾患は、聞こえや平衡感覚、臭い、味、嚥下などの重要な感覚と関連し、加齢性難聴、めまいやふらつき、嚥下障害や悪性腫瘍など高齢の方に多く認められます。しかし高齢者の場合は、様々な身体合併症により治療方針の決定に難渋することが少なくありません。当科は、日本でも数少ない高齢者専門の耳鼻咽喉科としての豊富な経験を元に、「高齢だから」という理由でひとくりせず、患者さんお一人お一人と全人的に向き合い、高齢者のQOL（生活の質）向上を目的とした診療に努めております。

加齢性難聴に関しては補聴器専門外来に加えて、高度難聴の方に対する人工内耳手術の施設認定を取得しており、当センターリハビリ科と連携する体制を整えております。嚥下障害に関しても専門外来を設置し、各種精査を行っております。また国が重要政策として掲げているアレルギー性疾患の1つであるスギ花粉症ですが、その舌下免疫療法、さらに生物学的製剤による治療も行っております。必要な方には、短期の入院による手術加療も積極的にご相談させていただきます。

スタッフ紹介



丸山 絢子
氏名 まるやま あやこ
職 診療科長、医長
出身 山梨大学（平成21年卒）
資格 耳鼻咽喉科頭頸部外科専門医
耳鼻咽喉科研修指導医
補聴器適合判定医 他

非常勤医

川島 慶之 かしま けいゆき
木村 百合香 きむら ゆりか

専攻医

梅野 なつき うめの なつき
山口 遥玄 やまぐち はるつね

歯科口腔外科

専門医チームが心身の状態を評価し安心できる口腔管理を行います

対象疾患

既往疾患（抗血栓療法実施中の循環器疾患、造血器疾患、糖尿病など）を有する方の歯科治療は、主治医と連携し治療を行います。骨吸収抑制薬（ビスホスホネート製剤など）使用例では、主治医と連携しつつ抜歯を行います。また薬剤関連顎骨壊死例の診察を行います。

認知症高齢者への歯科治療、口腔衛生管理を行います。

オーラルフレイル、口腔機能低下、摂食嚥下障害の症状に対し、評価および管理指導などを行います。

習慣性あるいは陳旧性顎関節脱臼例の診察を行います。

白板症など、口腔粘膜疾患の診察を行います。

顎顔面口腔の炎症性疾患、外傷の診察を行います。

地域歯科医師会、医師会と連携します。依頼内容が終了後、紹介医へ返送します。

また、当センターは日本老年歯科医学会認定施設であり、高齢者の診療を通じて、研修医育成、大学の選択実習受け入れなどを積極的に行っています。

ご紹介のポイント

高齢者の方々の口腔環境はここ20年で大きく変化し、歯科医療の需要も変化を遂げました。つまり、う蝕、歯周疾患などの口腔疾患治療や義歯作成だけでなく、口腔機能（摂食嚥下など）の維持回復への支援を担うことも求められつつあります。

当センターにおいて2021年にフレイル予防センターが設立され、当科でも平野部長がオーラルフレイルに対する有責者となっております。各科Drと連携し、専門性を生かした取り組みを行っています。

診療科紹介

歯科口腔外科では、様々な併存疾患をお持ちで、服用薬剤の影響、疾患による身体機能低下などにより、歯科治療などが困難な高齢者の方々へ対応を広く行っております。対象は、在宅療養者、介護保険施設入所者などの方への対応もさせていただきます。治療の際は、必要に応じて他科医師等と連携し包括的な評価を実施し、安全安心な医療管理の下に歯科治療を行っております。また、認知症高齢者の方への対応も行っております。さらに、歯科衛生士が中心となり、要介護高齢患者の方への口腔衛生管理・指導・助言などを実施しております。

オーラルフレイル、口腔機能低下、摂食嚥下障害に対する評価および管理指導なども、専用の機器を整備し実施しております。

診療スタッフは常勤医3名、非常勤医2名、研修医2名です。

スタッフ（以下、重複あり）は日本老年歯科医学会指導医（2名）・専門医（3名）、摂食機能療法専門歯科医師（1名）、口腔外科学会指導医・専門医（1名）・認定医（1名）、日本補綴歯科学会専門医（1名）であり、質の高い医療の提供に努めております。

スタッフ紹介



氏名 平野 浩彦
ひらの ひろひこ
役職 診療科長、部長
出身 日本大学松戸歯学部(平成2年卒)
日本老年歯科医学会認定医、指導医、専門医
資格 摂食機能療法専門歯科医師
歯科医師臨床研修指導医 他



氏名 齊藤 美香
さいとう みか
役職 医長
出身 日本大学松戸歯学部(平成7年卒)
日本老年歯科医学会専門医・指導医
日本顎咬合学会かみあわせ認定医
資格 歯科医師臨床研修指導医

常勤医

森 美由紀 もり みゆき

非常勤医

大鶴 洋 おおつる ひろし

太田 緑 おおた みどり

救急・集中治療科

24時間体制の救急から集中治療まで一貫した医療を提供します

対象疾患

各診療科と協力して、急患の初期対応を行います。

心不全

肺炎

消化器疾患

意識障害

敗血症

外傷一般

診療科紹介

当センターの救急・集中治療科は、急患対応および重症患者に対する集中治療を担う診療科として、2024年4月に新たに設立されました。現在、常勤医2名、非常勤医2名の体制で、内科・外科系医師の協力のもと、救急搬送に対応しています。

夜間・休日を問わず、24時間体制で一次および二次救急に対応しており、肺炎や転倒による外傷、発熱といった高齢者に多い疾患に幅広く対応しています。また、循環器内科、心臓血管外科、脳神経内科、脳神経外科との連携により、CCUネットワーク、大動脈スーパーネットワーク、脳卒中ホットラインを通じた重症患者の受け入れも行い、救急から集中治療までシームレスな治療が提供できる体制となっています。

私たちは、単なる救命にとどまらず、患者さん一人ひとりの病状や

希望、ご家族の思い、社会的背景にまで配慮した医療の提供を目指しています。共感と対話を大切にしながら、その人らしい生き方を支える救急・集中治療の実践に取り組んでまいります。

ご紹介のポイント

特定集中治療室（Intensive Care Unit: ICU）は、感染症や呼吸不全、代謝異常などの内科的重症患者さんを受け入れるMedical ICU、術後重症患者さんを受け入れるSurgical ICU、冠動脈疾患を中心とした循環器重症患者さんを受け入れるCoronary Care Unit（CCU）が共有で患者さんの治療を、担当科主治医と集中治療専門医が協力して行っています。ベッド数は8床で運用しています。

高齢者急性期病院である当センターは、他の病院に比べてICUで治療を受ける患者さんの年齢が高い傾向にあります。そのため、患者さんの背景を十分に考慮し、患者さんおよびご家族の意思を尊重しながら、適応のある患者さんには機械的補助循環装置や人工呼吸器、透析等、侵襲的な治療も積極的に行い、患者さんの生活の質を可能な限り落とさず、一日も早く退院できるよう、多職種が連携しながら治療にあたっています。

また2025年度からはNEWS score（National Early warning Score; 早期警告スコア）を用い、急変の可能性がある患者さんを早期に発見し、適応のある患者さんを迅速にICUに収容して治療を開始できるよう、救急外来および入院病棟とも連携・協力しながら加療を行っています。

スタッフ紹介



氏名 坪光 雄介
つばこう ゆうすけ
役職 診療科長、部長、循環器専門部長
出身 獨協医科大学（平成5年卒）
日本循環器学会循環器専門医
日本心血管インターベンション治療学会
専門医
資格 日本内科学会認定内科医



氏名 眞野 暁子
まの あきこ
役職 専門部長
出身 京都府立医科大学（平成8年卒）
循環器専門医
総合内科専門医
資格 ECFMG certificate
集中治療専門医 他

麻酔科

持病を多く抱える方の手術も専門医チームが全身の安全を管理

対象疾患

外科・整形脊椎外科・心臓血管外科・呼吸器外科・脳神経外科・泌尿器科・耳鼻咽喉科・循環器内科でのTAVI・精神科の電気けいれん療法（ECT）・眼科・歯科口腔外科・血液内科の骨髄液採取術を含むすべての診療科の手術麻酔に対応しています。

診療科紹介

手術のための周術期全身管理を主として行っています。常勤医10名のうち7名と週3日以上非常勤医2名は専門医や指導医資格を保有しており、それ以外にも専門医資格を有する非常勤医と合わせて質の高い麻酔管理を提供しています。

高齢者は体力が低下しているだけでなく、数多くの病気を抱えていることが多いため、手術の際にはより多くの知識や高い技術が必要になります。当麻酔科では術前からいねいな検査を実施し、身体所見だけでなく、手術前からの栄養介入や運動療法も提案しつつ、生活環境やご家族とのかかわりも含め、患者さんひとりひとりに最善の麻酔方法を考えます。そして十分な説明を行ったうえで、高齢者の手術麻酔に習熟したスタッフが、エコー・脳波解析モニター・心機能モニターなどを含めた最新の設備や機器を用いて診療を行っています。

ご紹介のポイント

特に以下のような患者さんの手術が必要な場合には、まず適切な診療科へご紹介ください。

- 90歳以上の超高齢患者さん
- 高度認知症患者さん
- 糖尿病や透析などの合併症をお持ちの高齢患者さん
- 心臓や呼吸器疾患をお持ちの高齢患者さん
- その他、特殊な病気をお持ちの高齢患者さん
- ほかの病院では手術が難しいと言われた病気をお持ちの高齢患者さん

手術を実施する診療科とともに、最善と考えられる麻酔法を考えていきます。

スタッフ紹介



氏名 縄田 瑞木
なわた みずき
役職 診療科長、専門部長
出身 群馬大学 (平成11年卒)
資格 日本専門医機構認定専門医
日本麻酔科学会認定指導医
日本麻酔科学会代議員 他

常勤医

清水 啓介 しみずけいすけ
鈴木 葉津希 すずきなつき
富田 大信 とみたひろのぶ
高橋 遼一郎 たかはしりょういちろう



氏名 小松 郷子
こまつ きょうこ
役職 部長
出身 岐阜大学 (昭和60年卒)
資格 日本専門医機構認定専門医
日本麻酔科学会認定指導医
日本老年麻酔学会指導医
社会医学系専門・指導医

非常勤医

内田 博 うちだひろし
脊山 雅子 せやままさこ
露寄 仁志 つゆさきひとし
市川 希帆子 いちかわきほこ
佐野 恵理香 さのえりか
麻生 晴美 あそおはるみ
渡邊 健司 わたなべけんじ



氏名 久保田 涼
くぼた りょう
役職 医長
出身 日本医科大学 (平成12年卒)
資格 日本麻酔科学会認定専門医
日本老年麻酔学会認定医
臨床研修指導医 他

専攻医

山本 紘大 やまもとひろたか
村上 侑里夏 むらかみゆりか
武井 美奈 たけいみなみ

リハビリテーション科

多職種チームが連携し入院中の身体機能の維持と回復をサポート

対象疾患

全科の入院症例を対象としています。

脳血管障害（脳梗塞、脳出血、くも膜下出血など）

運動器疾患（大腿骨頸部・転子部骨折、変形性関節症、脊椎疾患など）

神経内科疾患（パーキンソン病、多系統萎縮症、ギラン・バレー症候群、多発性硬化症など）

心疾患・動脈硬化性疾患（心筋梗塞、心不全、心臓外科術後、閉塞性動脈硬化症など）

呼吸器疾患（慢性閉塞性肺疾患、間質性肺炎など）

廃用症候群（外科術後・感染症・消化器疾患等の急性疾患に伴う安静による動作能力の低下）

悪性腫瘍（治療やがんの進行による身体への影響、廃用や悪液質など）

高次脳機能障害（外傷性脳損傷、脳血管障害、脳炎など）

ボツリヌス療法（脳血管障害後遺症等による痙縮、脳性麻痺、痙性斜頸など）

軽度認知障害（高齢者いきいき外来）

診療科紹介

リハビリテーション科は常勤医師4名、理学療法士（PT）23名、作業療法士（OT）7名、言語聴覚士（ST）5名が所属しています。主に入院患者さんを対象とした急性期リハビリテーションを行っています。高齢の救急搬送患者さんはADLが既に低下していたり、入院後に低下する可能性も高いため、急性期治療と共に、病棟での離床やリハビリテーションを進めることで、患者さんの在宅復帰を推進していきたいと考えています。入院患者さんの各診療科担当医から依頼を受け、診察・適応の判断・リハビリテーション処方を行い、療法士によるリハビリテーションを行います。脳卒中急性期患者さんが入院する脳卒中ユニット（SCU）では、毎朝のカンファレンスにリハ医・療法士も参加し、早期からのリハビリテーション介入を実施します。

地域包括ケア病棟では通常のリハビリテーションに加え、専従PTと看護師が協働する病棟リハビリテーションを施行しています。

多職種による栄養サポートチーム（NST）には、リハ科医師・STが参画して、毎週病棟を回診します。

理学療法などのリハビリテーション外来通院治療は行っていませんが、種々の障害の悪化や歩行障害などでお困りの患者さんにつきましては、診察や診断・生活指導等について、外来で拝見いたしますので御紹介ください。

ご紹介のポイント

①**高齢者いきいき外来**：軽度認知障害（MCI）専門外来です。初診時に神経学的診察と記憶検査等を実施しMCIの診断を行います。必要に応じてMRI・RI検査等を施行して原因疾患を鑑別いたします。運動習慣や認知機能トレーニングについて、生活指導・フォローアップを行います。

②**ボツリヌス外来**：主に脳血管障害後遺症による痙縮、痙性斜頸、成人脳性麻痺が対象です。診察・評価後、適応がある方に治療を行います。

初診：木曜午前、治療：火曜午後

③**装具診**：装具の適応や種類などを検討・作製します。お手持ちの装具の修理や装具に関する相談も受け付けています。

初診/再診：火曜午前

※いずれの外来も外来予約室専用電話

（03-3964-4890）より予約をお取りください

スタッフ紹介



氏名 近藤 和泉
こんどう いずみ
役職 診療科長、部長、センター長特任補佐
出身 弘前大学医学部卒（昭和57年卒）
日本リハビリテーション医学会専門医・指導医
資格 日本ニューロリハビリテーション学会認定医 他



氏名 加藤 貴行
かとう たかゆき
役職 専門部長
出身 旭川医科大学（平成2年卒）
リハビリテーション科専門医
資格 日本神経学会神経内科専門医・指導医
日本内科学総合内科専門医 他

常勤医

正田 奈緒子 しょうだ なおこ

全 秀剛 ぜん しゅうごう

非常勤医

金丸 晶子 かねまる あきこ

放射線治療科

経験豊富な専門家チームが体にやさしい放射線治療を提供します

対象疾患

放射線治療は全身のがん（一部の良性腫瘍を含む）が治療対象となります。当センターでの治療実績が多いのは、肺、消化器（食道がん、直腸がん、肝臓がん、膵臓がん）、血液（悪性リンパ腫や骨髄腫）、泌尿器（前立腺がん、膀胱がん）、乳がんです。高齢者に多い事が特徴である皮膚がん、脳腫瘍も多くの経験があります。

特徴は、

- ・「がん病巣あるいは症状の原因部位」をターゲットとする限局的な治療であるため、「全身的な影響が最小限のがん治療」であることです。「早期のがん」だが全身状態から手術切除が困難と診断された場合であっても、放射線治療が可能な場合があります。
- ・たとえ病巣が全身に広がった状態でも、「苦痛症状の原因部位だけに限った」症状緩和が目的の放射線治療（1回照射）が適応となる場合があります。
- ・年齢だけが理由で放射線治療の適応外となることはありません。ご高齢であっても安全に放射線治療を実施できます。

診療科紹介

当センターは2021年度に最新鋭の放射線治療システムを導入しました。高精度な治療（画像誘導放射線治療、定位放射線治療、強度放射線治療、呼吸同期照射など）が可能となりました。安全で精度の高い「からだに優しく、腫瘍に対しては強力な」放射線治療を提供いたします。

国立大学病院や都内のがん専門病院・がんセンター、大規模総合病院などで勤務してきた経験豊富な放射線治療専門医が担当いたします。乳がんに関しては、プレストセンターが高名な都内総合病院での勤務経験がある女性放射線治療専門医および女性の診療放射線技師が在籍しており、女性患者様の安心感につながります。

放射線治療は、医師に加えて専門的知識を持つスタッフ（看護師、診療放射線技師、放射線治療の装置やビームの品質管理を担当する

専門的技術者など）から成る専門家チームが担当します。チーム一丸となって初診時の診察から適応や方針の決定、治療計画の作成、そして毎日の治療に関わっています。当センターの放射線治療部門では、がん専門病院で長く勤務していた看護師や、放射線治療専門放射線技師、放射線治療品質管理士が活躍しています。

もちろん、がん治療専門家集団の一員として、センター内の各診療科主治医、病棟スタッフとは臓器別カンファレンスやコンサルテーションを通じて常に情報共有をしています。

ご紹介のポイント

完全予約制です。原疾患の当該診療科にご紹介下さい、院内紹介で治療対応します。まずは当センターの医療連携係を通じて、肺癌なら呼吸器内科や呼吸器外科、症状緩和目的なら緩和ケア科や緩和ケア病棟入院相談外来などご紹介ください。

院内カンファレンス等を通じて当センター主治医と適応や治療方針についてご相談し、放射線治療の実施を検討いたします。

ただし、「放射線治療だけが目的」の乳がん術後症例、限局性前立腺がん症例の場合は、この限りではありません。詳細は医療連携係にお問い合わせください。

スタッフ紹介



氏名 内田 伸恵
うちだのぶえ
役職 診療科長、部長
出身 島根医科大学（昭和59年卒）
放射線科専門医
放射線治療専門医
日本医学放射線学会研修指導者
がん治療認定医
資格



氏名 角 美奈子
すみみなこ
役職 部長
出身 熊本大学（昭和61年卒）
日本医学放射線学会専門医
日本放射線腫瘍学会認定医
放射線治療専門医
資格 難病指定医

非常勤医

稲松 孝思 いなまつたかし
長島 一浩 ながしまかずひろ

病理診断科

正しい診断こそが治療の第一歩 迅速かつ正確に病態を解明します

対象疾患

病理診断科では各診療科から依頼される検査を行っています。他の医療機関からの検査も一部受け付けています。

生検：内視鏡検査検体、皮膚、泌尿器をはじめ病変の生検検体など

術中迅速診断：手術中に治療の決定のための腫瘍の組織型、切除断端の評価

手術検体：内視鏡的切除検体、外科切除検体など

細胞診：喀痰、尿、体腔液検体、腫瘍の穿刺吸引検体など

病理解剖：死因究明、病態解明のためにご遺族の承諾のもと実施します。COVID-19、クロイツフェルト・ヤコブ病など感染症を有する疾患にも対応します。

受託解剖：他医療機関からの病理解剖を受け付け

セカンドオピニオン外来：事前予約が必要ですが、他病院で実施された病理検査の病理診断に関するご相談を受け付けています

診療科紹介

病理診断科では、検査や手術で採取された組織や細胞を顕微鏡で検査して病理診断を行います。治療の適応を決めるコンパニオン診断にも対応しています。病理診断は病理専門医、分子病理専門医、細胞診専門医、神経病理専門医が担当します。正しい病理診断が正しい治療の第一歩であり、迅速かつ正確な診断を心がけ取り組んでいます。

- ・生検、手術検体、術中迅速診断、細胞診、病理解剖、病理特殊検査など、病理学的検査全般を取り扱っています。
- ・通常の病理組織検査を始めとして、免疫組織化学検査法、蛍光抗体法、in situ hybridization法、酵素化学検査、電子顕微鏡検査、

一部の遺伝子検査も可能です。

- ・検査の結果は基本的に生検2日～約1週間、手術検体5日～約10日、細胞診2、3日以内で報告し、診療が速やかに進むように努めています。
- ・病理診断に関するセカンドオピニオン外来を行っています。他病院で診断された病理標本をお持ち頂き、病理診断に関するご相談を受け付けています。
- ・当センターの病理診断科は研究所老年病理学研究チーム（高齢者がん研究グループ、神経病理学研究グループ）と連携して、質の高い病理診断を目指しています。
- ・受託解剖を受け付けています。他の医療機関から病理解剖を受け付けており、死因究明、公衆衛生の向上に努めています。

ご紹介のポイント

病理検査の大部分は当センター内の各診療科からの依頼ですが、他医療機関から下記の検査を受け付けています。申し込みの詳細については病院のホームページをご覧ください。

セカンドオピニオン外来：他の医療機関で病理診断された検査について、ご相談にのります。受診の際は事前に予約し、病理標本をお持ちください。

病理解剖：他の医療機関からの病理解剖を受け付けています。申し込みについては病理診断科に直接電話連絡してください。

その他の病理検査：病理検査に関する全般についてご相談のある方はご連絡ください。最善の方法が見つかるようご相談にのります。

スタッフ紹介



氏名 六反 啓文
ろくたん ひろふみ
役職 診療科長、医長
出身 東京大学(平成19年卒)
資格 病理専門医・分子病理専門医・病理専門医
医研修指導医
細胞診専門医
日本病理学会学術評議員

研究所所属医師

野中 敬介 のなか けいすけ
齊藤 祐子 さいとう ゆうこ
村山 繁雄 むらやま しばお



氏名 新井 富生
あらい とみお
役職 部長、臨床検査科専門部長
出身 浜松医科大学(昭和59年卒)
資格 病理専門医・分子病理専門医・病理専門医
医研修指導医
細胞診専門医、細胞診教育研修指導医
臨床検査専門医・臨床検査管理医

非常勤医

坂本 啓 さかもと けい
倉田 盛人 くらた もりひと
寺崎 泰弘 てらさき やすひろ

常勤医

小松 明子 こまつ あきこ

病院所属医師

原 愛徒 はら まなと
青木 華古 あおき はなこ
松原 知康 まつばら ともやす

専攻医

柏 良之輔 かしわ りょうのすけ
久富 匡皓 くどみ まさひろ
下山 みらい しもやま みらい

臨床検査科

専門資格を持つ技師が精度の高い検査をスピーディに提供します

対象疾患

臨床検査科では各診療科から依頼される検査を行っています

中央採血室：外来診療前検査、外来化学療法前検査、術前検査など

検体検査部門：血液・尿・便・体液分析、骨髄細胞形態鑑別、薬物検査など

細菌検査部門：感染症の診断・治療にかかわる検査

生理機能検査部門：従来の生理検査項目（心電図や肺機能検査、超音波検査など）の他、動脈硬化スクリーニング（血圧脈波伝播速度検査：ABI/PWV、24時間血圧測定など）、脳梗塞関連検査（ホルター心電図、脳波など）も実施

緊急検査については、臨床検査技師が当直業務を行い24時間体制で対応しております。また、当センター外で行われる外部委託検査も受付けています。

診療科紹介

臨床検査科は、現代医療における診断、治療、予防にとって必要不可欠な検査関連業務を担っています。当センターでは中央採血室、検体検査部門、細菌検査部門及び生理機能検査部門で構成されています。国家資格を有する臨床検査技師が検査を担当しております。また、学会認定資格（認定血液検査技師、認定微生物検査技師、感染制御認定臨床微生物検査技師（ICMT）、超音波検査士など）を取得している技師も多数在籍し、より精度の高い検査を提供しております。

当センターの臨床検査科では、以下のような特徴があります。

- ・高齢者のQOLに配慮した安心・安全な検査対応を心がけています。

- ・外来採血は8：00より開始し、外来診療前検査や外来化学療法などに迅速対応しています。

- ・土日・休日夜間を含め、24時間体制で高齢者救急医療を支援しています。

- ・栄養サポートチーム（NST）や感染制御チーム（ICT）など、チーム医療に参画して中心的に活動しています。

- ・新型コロナウイルスのPCR検査は、終日、1時間以内に結果報告をできる体制を構築しています。

迅速かつ正確に検査結果を提供できるよう一丸となって取り組んでいます。

ご紹介のポイント

臨床検査科では、地域医療連携に協力しております。

原則として検査は予約制となっております。各診療科を受診し、担当医からの検査依頼を受けて実施します。

C@RNAconnectは24時間オンライン予約が可能なシステムで、診療科受診なしで検査のみを予約することも可能です。検査を実施後、当センターより報告書を提出いたします。

予約可能な項目は以下の通りです。

- ・ホルター心電図
 - ・24時間血圧測定
 - ・エコー検査（腹部、心臓、甲状腺、体表/血管）
 - ・筋電図検査（毎週火曜日の13：30/15：00の2枠を設定）
- 是非、ご利用ください。

スタッフ紹介



氏名 千葉 優子
ちば ゆうこ
役職 診療科長、部長
出身 群馬大学（平成7年卒）
資格 日本内科学会総合内科専門医・指導医
日本糖尿病学会専門医・指導医・評議員
日本内分泌学会専門医・指導医 他



氏名 新井 富生
あらい とみお
役職 専門部長、病理診断科部長
出身 浜松医科大学（昭和59年卒）
資格 病理専門医・分子病理専門医・病理専門
医研修指導医
細胞診専門医・細胞診教育研修指導医
臨床検査専門医・臨床検査管理医

非常勤医

森 秀明 もり ひであき

放射線診断科

専門医チームによる画像診断で最適な治療への道筋を示します

対象疾患

CT（コンピューター断層撮影）

短時間撮影で薄いスライスでの画像診断は、診断精度向上に寄与しております。腎機能に応じた造影剤の減量も実現しています。

MRI（磁気共鳴画像）

腹部領域では、磁気共鳴胆管膵管撮影（MRCP）をはじめとする肝臓や膵臓、胆道系の検査、泌尿器系の検査等を行っています。

中枢神経領域では、脳血管障害や認知症をきたす疾患を中心として、脳腫瘍、てんかん、脳炎・脳症なども対象としています。

骨密度検査

マンモグラフィ

核医学検査

検査適応の判断や検査説明などが必須ですので、まずは各診療科の受診をお願いいたします。

RI（放射性同位体）検査：骨シンチグラフィ、脳血流シンチグラフィによる脳血管障害や認知症診断、さらにはパーキンソン病国際診断基準に記載されているMIBG心筋シンチグラフィ、ダクトスキャンなどを施行しています。

PET（陽電子放出断層撮影）検査：18F-FDGを用いた検査では、癌や炎症病巣を特定し良悪性の鑑別、転移病巣の有無、治療効果判定、再発の有無、さらにはアルツハイマー病などの認知症疾患、てんかん、大型血管炎などの診断に寄与しています。13N-アンモニアを用いて、他の検査では診断がつかない虚血性心疾患の診断に用いら

れます。特にアルツハイマー病治療薬の適応判断のため**アミロイドPET**に関しては、**ものわずれ外来**受診をお願いしております。

診療科紹介

当科では全診療科を支える「画像診断」を行っています。腫瘍、脳血管障害、認知症、感染症、甲状腺、乳腺、心臓疾患、前立腺、脊椎症など、救急から慢性期にわたるあらゆる疾患を迅速かつ正確に診断するために、適切な検査を選択し、そこで得られた「画像情報」を正しく診断し、診療の道筋を示すことが役目です。X線写真やCT、MRI、核医学（PETなど）検査には専門的な知識・技術が必要で、診療放射線科技師や看護師、事務スタッフ、放射線科医が協力してそれぞれの検査が成り立っています。

特に高齢者に特化した画像診断の研鑽を積み、認知症画像診断でも各診療科とチームを組み臨床に即した診断を提供できるよう努力しています。加齢に関連して増加する癌や血管障害、認知症を超高齢化社会の重要課題として、健康長寿社会を目指し、「適切な時期の正確な診断」に寄与できるよう努めてまいります。

特にアルツハイマー病の新しい治療薬に関して、当科では診療チームと密な連携を持ち、薬剤適応判断や副作用評価に対応した診断体制構築を行っています。

スタッフ紹介



氏名 **明石 敏昭**
あかし としあき
役職 診療科長、部長
出身 奈良県立医科大学（平成17年卒）
医学博士
日本医学放射線学会認定放射線診断専門医
資格 日本医学放射線学会認定指導医



氏名 **徳丸 阿耶**
とくまる あや
役職 部長
出身 三重大学（昭和60年卒）
医学博士
日本医学放射線学会認定放射線診断専門医
資格 日本医学放射線学会認定指導医 他



氏名 **高田 晃一**
たかだ こういち
役職 専門部長
出身 帝京大学（平成10年卒）
医学博士
資格 日本医学放射線学会研修指導者
放射線診断専門医



氏名 **鈴木 文夫**
すずき ふみお
役職 医長
出身 東京大学（平成22年卒）
放射線診断専門医
資格 日本医学放射線学会研修指導者
医学博士

常勤医

金島 理紗 かねしまりさ
後藤田 晃平 ごとうだこうへい

非常勤医

岡田 慎悟 おかだしんご
岡田 知久 おかだともひさ
狩野 洋輔 かのうようすけ
津田 正喜 つだまさき
中塚 智也 なかつかともや
波多野 嗣久 はたのつぐひさ
治山 高広 はるやまたかひろ
平井 ミキ ひらいみき
味元 公子 みもときみこ

専攻医

大矢 太郎 おおやたろう

臨床研修医

氏名	かな	コース
高津 茉生	たかつ まお	臨床研修医（1年）（内科）
小川 智弘	おがわ ともひろ	臨床研修医（1年）（内科）
圓道 歌織	えんどう かおる	臨床研修医（1年）（内科）
速水 萌々香	はやみ ももか	臨床研修医（1年）（内科）
伊藤 大貴	いとう ひろき	臨床研修医（1年）（内科）
上蘭 冬樹	かみぞの ふゆき	臨床研修医（1年）（内科）
牧野 照正	まきの てるまさ	臨床研修医（1年）（内科）
乙井 大我	おとい たいが	臨床研修医（1年）（内科）
住友 愛賀理	すみとも あかり	歯科臨床研修医（1年）（歯科口腔外科）
清水 利紀	しみず としき	臨床研修医（1年）（内科）
友近 祐奈	ともちか ゆうな	臨床研修医（1年）（内科）
長瀬 慶信	ながせ よしのぶ	臨床研修医（1年）（内科）
梅澤 果那	うめざわ かな	臨床研修医（2年）（内科）
新井 優樹	あらい ゆうき	臨床研修医（2年）（内科）
和田木 あかり	わだき あかり	臨床研修医（2年）（内科）
松崎 広太	まつざき こうた	臨床研修医（2年）（内科）
小川 文寧	おがわ あや	臨床研修医（2年）（内科）
大本 奏	おおもと かなで	臨床研修医（2年）（内科）
榊原 朋廣	さかきばら ともひろ	臨床研修医（2年）（内科）
柿崎 香凜	かきざき かりん	臨床研修医（2年）（内科）
日吉 彩乃	ひよし あやの	歯科臨床研修医（2年）（歯科口腔外科）

6 看護部紹介

「地域と共に高齢者を支える看護実践」

当センター看護部では、「高齢者の尊厳を尊重し、その人が持つ力を引きだし、QOLを支える看護」を理念に掲げております。高齢者医療の最先端病院として、病気の治療だけでなく、その人らしい生活をどう支えるか、入院前の生活をどう取り戻すのか、退院後の暮らしにどう繋ぐのか、をという視点を大事にしています。

患者さんの思いを繋ぐACP支援

看護部では、患者さんやご家族とこれからの治療や生活について話すACP支援に取り組んでいます。当センターでは、患者さんが大切にしていることや望んでいる生活、治療に対する思いなどを丁寧に伺い「人生会議記録」として記録しています。この記録は、入院中の医療チームだけでなく、退院後の医療・介護へも繋がるように共有し、患者さんの価値観や希望が医療の中で尊重されることを目指しています。

地域の先生方とともに、患者さんの思いを大切にした医療を繋いでいければと思います。



私たちの目指すエンドオブライフケア

そのひとそれぞれの望みを知り、
その人がいまをどう生きるかを実現する支援＝ACP

ACPとは・・・

患者ひとりひとりが“いま、何を大切に思い、これからどんな生活をしていきたいか”そのために受けたい医療やケアを患者自身が考えることを支援するプロセスです。

看護師の行う3つの支援プロセス

STEP
1

意思“形成”支援

本人の価値観や大事にしていることに耳を傾ける

STEP
2

意思“表明”支援

本人の言葉や、行動に意味を受け止め、なぜそう思うのか（価値観）、本人の意思を共有する

STEP
3

意思“実現”支援

本人の意思・価値観を本人を含めた多職種で共有し、医療やケアに反映させ、希望の暮らしを支える

令和4年3月 エンドオブライフケア委員会

高齢者医療における災害対応と地域連携

当センターは東京都災害拠点病院として、平時の急性期医療に加え、災害時にも地域医療を支える役割を担っています。特に高齢者急性期医療を専門とする当センターでは、急性期疾患の対応から、慢性疾患を有する患者やフレイル状態の高齢者など、災害時に配慮が必要な患者への対応が重要となります。


当センターでは、院内BCPに準じた訓練や患者搬送訓練を実施するとともに、地域の看護学校で災害看護の教育にも取り組み、災害時医療を担う人材育成を進めています。



専門・認定看護師をぜひご活用ください。


患者さんの「意思決定」を支える

私たちは、高度な専門知識と技術を持つスペシャリストとして、患者さん一人ひとりの価値観や人生観を尊重した看護を提供しています。治療の選択に迷うとき、療養場所を決めるとき、そして日々の生活の中で生じる様々な悩みに対し、「その人らしい生活をしていくこと」を最優先に考え、意思決定を全力で支援することに積極的に関わっています。




CNS


専門看護師



がん看護




老人看護




CN


認定看護師 (II領域)




認知症看護




緩和ケア




がん化学療法看護




感染管理




慢性心不全看護




慢性呼吸器疾患看護




皮膚・排泄ケア




クリティカルケア




糖尿病看護



摂食嚥下障害看護




脳卒中リハビリテーション看護



NP

診療看護師



診療看護師

在宅療養・退院支援

退院後の生活を見据えた環境調整
介護者への技術指導・相談
脳卒中後の生活再構築支援

専門的なケア・管理

がん化学療法の副作用対策
心不全・呼吸器疾患の増悪予防
褥瘡ケア・ストマ管理・感染対策

認知症・高齢者ケア

認知症の周辺症状(BPSD)対応
摂食嚥下機能の評価と訓練

意思決定支援・ACPの実践

地域とともに、 その人らしい 暮らしを支えます

私たちは院内だけでなく、地域の医療・介護職の皆様とも連携し、患者さんの意思決定と療養生活を支援します。「こんなこと相談してもいいのかな?」と迷う場面でも、まずはお気軽にご相談ください。



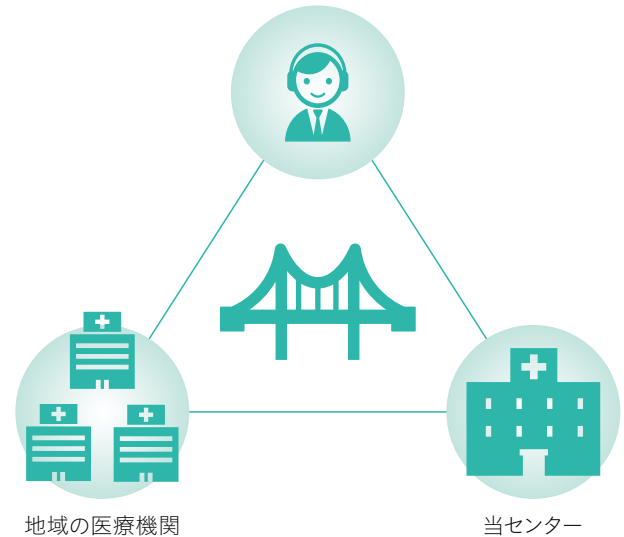
7 医療連携係／連携医制度のご案内

医療連携係とは

地域の皆さまに安心・満足してご利用いただける病院として、地域のかかりつけの先生方をはじめ、様々な医療機関を“つなぐ”窓口です。医療を必要とされる方がスムーズかつ適切な医療サービスをお受けいただけるよう、地域と当センターをつなぐ架け橋となり、円滑な前方連携を図ることを役割としております。

主な業務内容

- ・ 地域医療機関からの各種お問い合わせ窓口
- ・ 外来診察／検査の予約調整
- ・ 入院／転院に関するご相談・調整
- ・ 医療機関への各種返書管理
- ・ 各種研修会／公開講座・CPC等の開催
- ・ 広報（診療科のご案内・地域連携NEWS等の作成）
- ・ かかりつけ医紹介窓口による逆紹介
- ・ 各種統計業務
- ・ その他医療連携に関する調整業務



地域と当センターをつなぐ架け橋

入院・転院・受診のご相談

医療連携係までお電話のうえ、FAXにて診療情報提供書をお送りください。できる限り速やかにお返事いたします。

連携医制度のご案内

地域での豊富な診療経験をお持ちの先生方と、当センターが相互に連携し適切な役割分担のもと、患者さんに一貫性のある良質な医療を提供できるよう連携医制度を設けております。

かかりつけ医紹介窓口

当センターにおける急性期治療が終了し、かかりつけ医をお持ちでない患者様や通院が困難になってきた患者様へ今後安心して通院していただける医療機関をご案内させていただく窓口です。

医療連携係

☎ **03-3579-6963** (直通電話)
9:00～17:00 (土日祝日／年末年始を除く)

FAX **03-3964-1392** (直通FAX)



8 ご紹介方法/受診について

外来予約

当センターは原則、予約診療となっております。

ご予約の際は、患者さんのお名前・生年月日・お電話番号をお知らせください。

外来予約センター専用電話

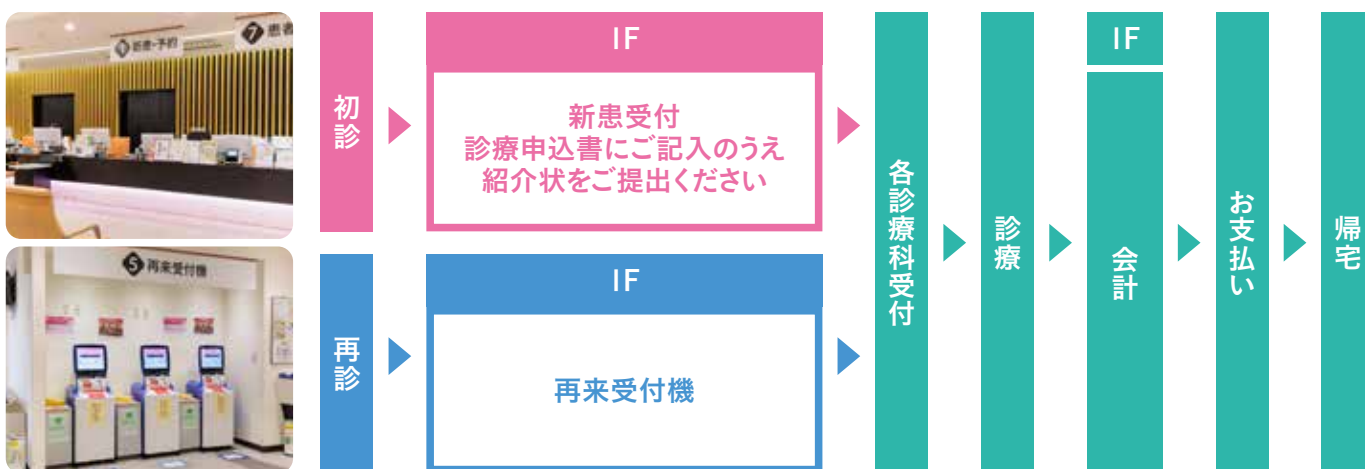
 **03-3964-4890**

9:00～17:00（土日祝日／年末年始を除く）

WEB予約

予約専用電話が繋がりにくい場合など、インターネットを利用した診療予約24時間、いつでも申し込みが可能です。

● 受診当日の流れ



緊急受診・緊急入院のご相談

代表番号

 **03-3964-1141**

[緊急受診（入院）の依頼です。〇〇科の連携当番医へつないでください]とお話ください。医師が直接お電話で病状等を聞き取りいたします。



救急外来

当センターは二次救急医療機関として24時間体制で、緊急対応を必要とする患者さんを中心に、救急診療を行っています。

受診を希望される際は、必ず事前にお電話にてお問い合わせください。

来院時は休日・時間外入口から入り、救急外来受付インターホンを押してください。

受診時に必要なお持ち物

診察券（当センターに受診したことがある人）

マイナンバーカードまたは資格確認証

紹介状

各種公費医療受給者証（※お持ちの方のみ）

お薬手帳



9 検査・初診予約システムのご案内

当センターでは、オンラインで24時間検査・初診予約が可能な「C@RNA Connect」を導入しております。これにより、いつでも・どこからでも専用サイトを通じて当センターのご予約が可能となります。

新規にご登録をご希望される場合には、当センターホームページより申込書をダウンロードのうえ、医療連携係までお送りください。

C@RNAConnectのご案内

主なサービス

- ・放射線検査
MRI / CT / RI / 骨密度測定
- ・生理検査
各種超音波 / ホルター心電図 / 24時間自由行動下血圧測定 / 筋電図
- ・上部内視鏡検査
- ・初診予約
総合内科・高齢診療科、膠原病・リウマチ科、腎臓内科・透析科、糖尿病・代謝・内分泌内科、感染症内科、循環器内科、呼吸器内科、消化器・内視鏡内科、脳神経内科、血液内科、精神科、消化器・一般外科、血管外科、心臓血管外科、脳神経外科、呼吸器外科、整形・脊椎外科、皮膚科、泌尿器科、眼科、耳鼻咽喉科、栄養指導外来

結果について

検査および診療の結果は、ご報告書を作成し後日ご紹介元へご郵送します。

当日ご持参いただくもの

- 診察券（当センターに受診したことがある人）
- マイナンバーカードまたは資格確認証
- 紹介状
- 各種公費医療受給者証（※お持ちの方のみ）
- お薬手帳
- 検査同意書（必要時）



10 相談窓口について

在宅医療・福祉相談室

お問い合わせ

☎ 03-3964-1141 (代表)

9:00～17:00(土日祝日/年末年始を除く)

在宅医療や福祉に関する相談

当センターに入院および外来通院中の患者家族における療養上・介護上の相談に応じています。予約の上、相談させていただきますので在宅医療・福祉相談室までご連絡ください。

場所 1階⑧入退院支援室内 在宅医療・福祉相談室



がん相談支援センター

お問い合わせ

☎ 03-3964-5946 (直通)

9:00～16:00(土日祝日/年末年始を除く)

がんに関する相談

患者さんやご家族のほか、地域の方々はどなたでも無料でご利用いただけます。がんに関する治療や療養生活全般、地域の医療機関などについて、看護師・ソーシャルワーカーが対応いたします。

場所 1階⑧入退院支援室内 がん相談支援センター

認知症疾患医療センター

お問い合わせ

☎ 03-3964-1141 (代表)

9:00～17:00(土日祝日/年末年始を除く)

認知症・精神科に関する相談

もの忘れ外来の受診相談をはじめ、精神科へのレスパイト入院やBPSD(行動・心理症状)治療を目的とした入院相談を承っています。また、認知症以外の高齢者精神障害に関するご相談も可能です。患者さんやご家族、地域の医療介護機関、行政の方々からの多様なニーズに対し、医師・看護師・公認心理師・ソーシャルワーカーらによる多職種チームが連携。認知症のある方が「その人らしい生活」を送れるよう、一体となってサポートいたします。どうぞお気軽にご相談ください。

場所 2階 認知症専門相談室



医療連携係

お問い合わせ

☎ 03-3579-6963 (直通)

9:00～17:00(土日祝日/年末年始を除く)

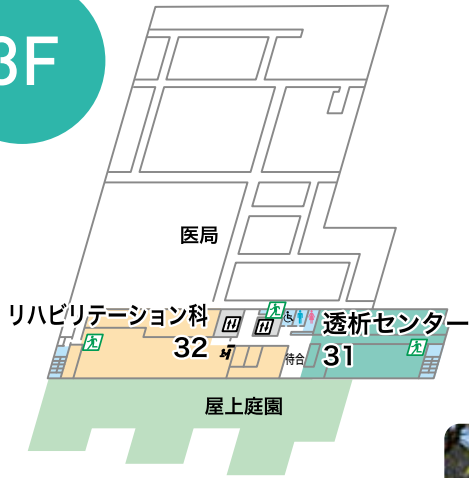
かかりつけ医に関する相談

当センターにおける急性期治療が終了し、かかりつけ医をお持ちでない患者様や通院が困難になってきた患者様へ今後安心して通院していただける医療機関をご案内をいたします。

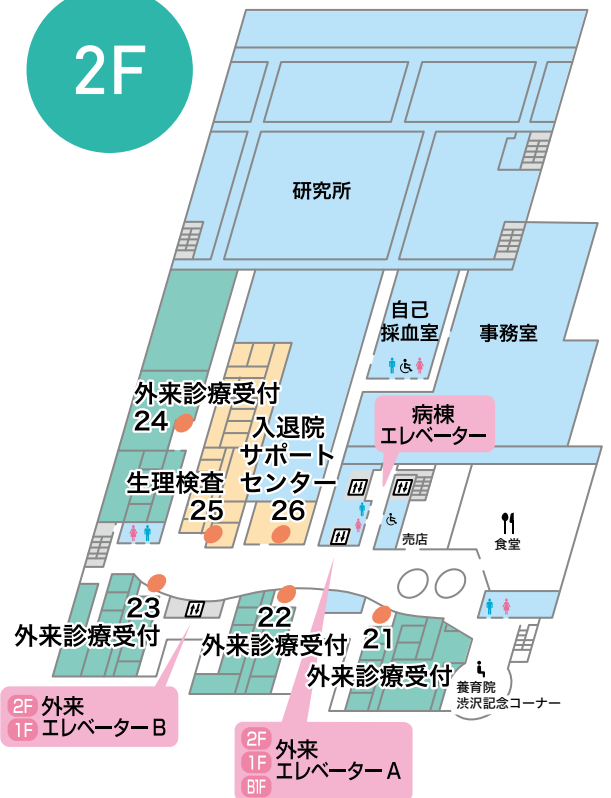
場所 1階⑧入退院支援室内 医療連携係

11 施設のご案内

3F



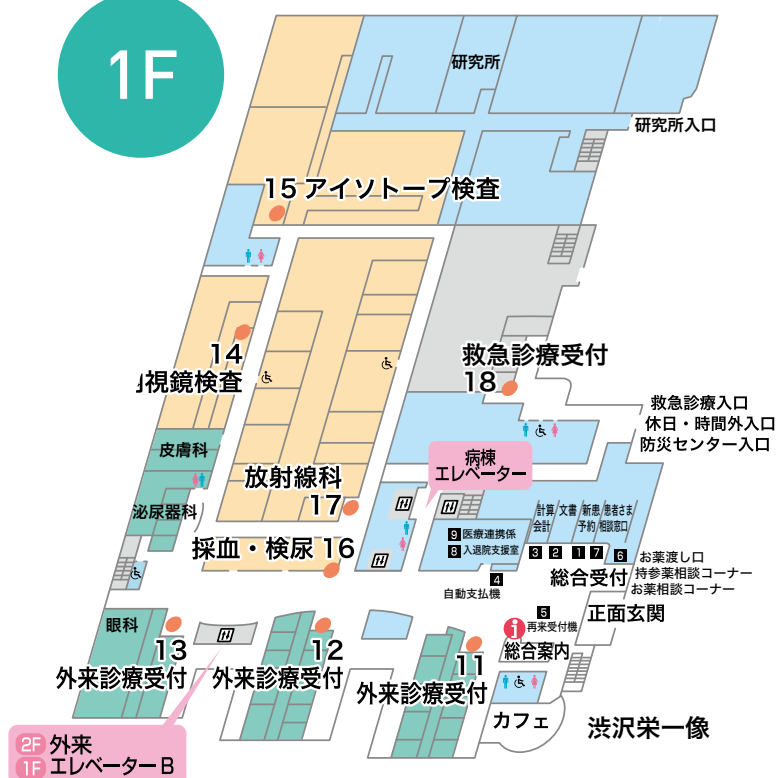
2F



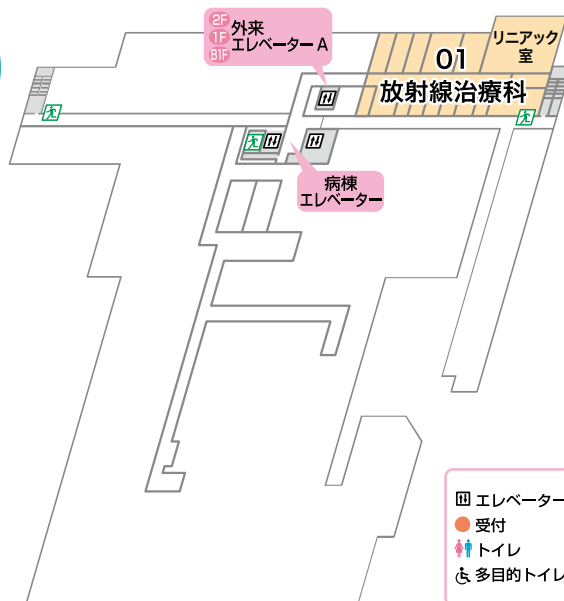


	西	東
12F	緩和ケア病棟	
11F	精神科病棟	
10F	脳卒中ケアユニット (SUC)	
9F	一般病棟	
8F	一般病棟	
7F	一般病棟	
6F	地域包括ケア病棟	
5F	一般病棟	
4F	特定集中治療室 (ICU・CCU) 中央手術室、血管造影室、麻酔科、病理検査室	
3F	リハビリテーション室、透析センター、屋上庭園	
2F	外来、外来化学療法室、生理機能検査室、入退院サポートセンター、レストラン、コンビニ、養育院・渋沢記念コーナー	
1F	外来、採血、採尿室、放射線科、救急外来、カフェ、入退院支援室 (入院受付、在宅医療・福祉相談、医療連携)	
B1F	放射線治療科、リニアック室	

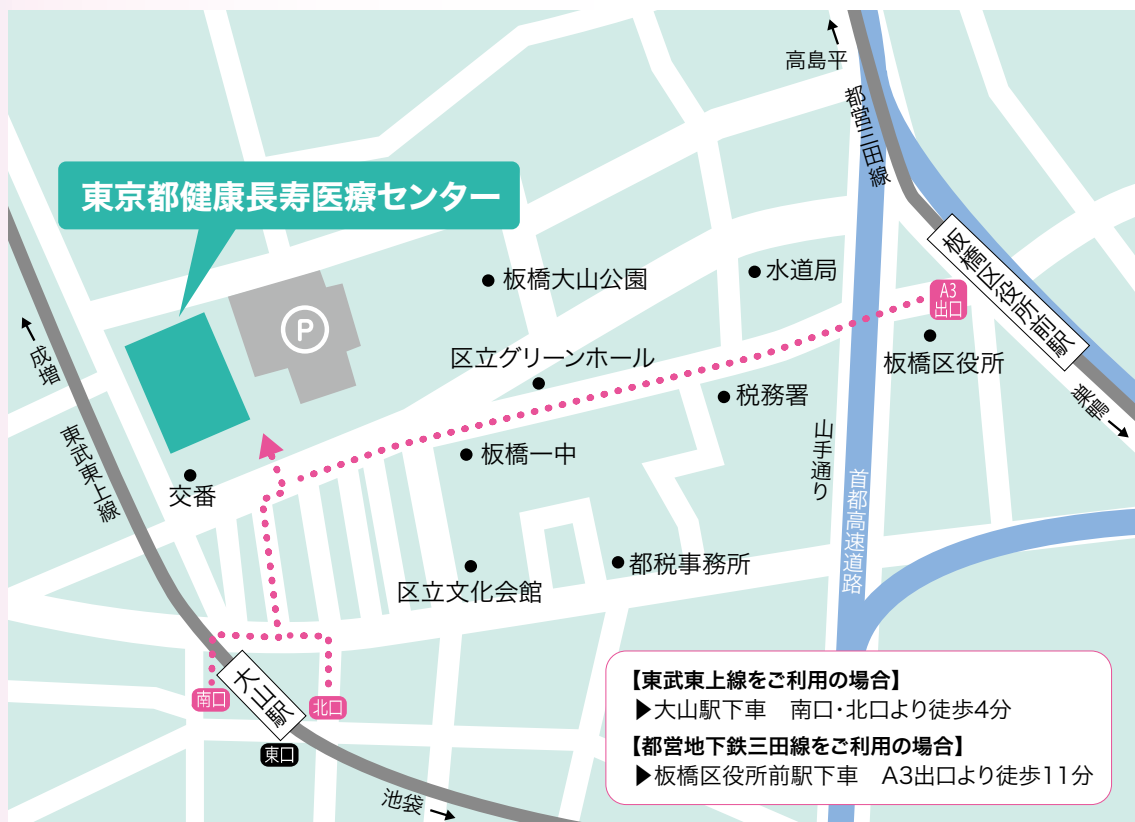
1F



B1F



- Ⓜ エレベーター
- 受付
- ♂ ♀ トイレ
- ♿ 多目的トイレ



【東武東上線をご利用の場合】
 ▶ 大山駅下車 南口・北口より徒歩4分
【都営地下鉄三田線をご利用の場合】
 ▶ 板橋区役所前駅下車 A3出口より徒歩11分

各種電話番号

予約センター

(外来受診予約に関するお問い合わせ)

03-3964-4890

9:00~17:00 (土日祝日/年末年始を除く)

がん相談支援センター

(がん相談に関するお問い合わせ)

03-3964-5946

9:00~16:00 (土日祝日/年末年始を除く)

脳卒中ホットライン

(脳卒中かもしれない患者の診察依頼)

080-4116-1141

医師が応答して受け入れます

※結果的に脳卒中でなかったとしても問題ありません

循環器ホットライン

急性冠症候群、弁膜症、心不全、不整脈、大動脈瘤、大動脈解離、急性動脈閉塞など

03-3962-8325

医師が応答して受け入れます

※緊急対応が必要な時、その他お困りの時はいつでもご連絡ください。

急性腹症外科ホットライン

虫垂炎、胆嚢炎、消化管穿孔、ヘルニア嵌頓、絞扼性腸閉塞などを疑う急な腹痛

03-3964-3260

9:00~17:00 (土日祝日/年末年始を除く)

医師が応答して受け入れます

※診断がついていない状態でも構いません。

医療連携係

(医療機関からのお問い合わせ全般)

03-3579-6963

9:00~17:00 (土日祝日/年末年始を除く)

代表電話

(当センターへのお問い合わせ全般)

03-3964-1141